

平成27年度第6回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成27年7月22日（水）	午前9時
場	所	八王子市役所 8階	801会議室

第6回定例会議事日程

- 1 日 時 成27年7月22日（水）午前9時
- 2 場 所 八王子市役所 8階 801会議室
- 3 協議事項 平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について

出席者

教 育 長	坂 倉 仁
教育長職務代理者	金 山 滋 美
委 員	和 田 孝
委 員	星 山 麻 木
委 員	輿 水 かおり

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人
施 設 管 理 課 長	岡 功 英
保 健 給 食 課 長	野 田 明 美
教 育 支 援 課 長	穴 井 由美子
指 導 課 長	中 村 東洋治
教 職 員 課 長	廣 瀬 和 宏
統 括 指 導 主 事	佐 藤 晴 美
統 括 指 導 主 事	斉 藤 郁 央
生涯学習スポーツ部長	小 柳 悟
図 書 館 部 長	小 坂 光 男
指 導 課 指 導 主 事	野 村 洋 介
教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
教 育 総 務 課 主 任	村 石 英 里
教 育 総 務 課 主 事	廣 瀬 桃 子
教 育 総 務 課 嘱 託 員	村 尾 ひとみ

八王子市立中学校使用教科用図書選定資料作成委員会

委 員 長	今 井 啓 之
副 委 員 長	高 塚 健 治
副 委 員 長	門 馬 弘
副 委 員 長	黒 島 永 虎
教科別調査部会「国語（書写）」部長	枝 村 晶 子
教科別調査部会「国語（書写）」副部長	堀 江 朋 子
教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長	川 口 浩
教科別調査部会「社会（地理、地図）」副部長	井 上 俊 夫
教科別調査部会「社会（歴史）」部長	石 塚 克 美
教科別調査部会「社会（歴史）」副部長	上 田 太
教科別調査部会「社会（公民）」部長	福 山 隆 彦
教科別調査部会「社会（公民）」副部長	嶋 津 和 之
教科別調査部会「数学」部長	工 藤 彰 久
教科別調査部会「数学」副部長	久 保 寺 進

【午前9時00分開会】

○坂倉教育長 大変お待たせいたしました。

本日の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成27年度第6回定例会を開会いたします。

本日は、大勢の傍聴人にお越しいただいております。八王子市教育委員会傍聴人規則では、第3条におきまして、傍聴人の定員は40名と定められておるところでございますが、教育長が必要と認めるときは、これを変更することができるとの但し書きがございます。

これに基づき、皆様の御要望にできる限りお応えすべく、今回は100席御用意しております。皆様の御期待に沿えるよう、我々も真剣に審議を行ってまいりたいと思っております。

また、八王子市では、地球温暖化対策、省資源対策の関係で節電をいたしております。本定例会においても、照明は一部消灯しておりますし、また、職員等がクールビズで対応させていただいておりますが、御了承いただきたいと思います。

日程に入ります前に、本日の議事録署名員の指名をいたします。

本日の議事録署名員は和田孝委員を指名いたします。よろしく願いいたします。



○坂倉教育長 続いて、協議事項「平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について」を議題に供します。

本件について、指導課から説明願います。

○佐藤統括指導主事 それでは、平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書採択について、協議をお願いいたします。

今回は、来年度から4年間、市立中学校で使用する教科用図書の採択となります。

平成27年4月22日決定の「平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書採択要綱」に基づき、教科用図書選定資料作成委員会を設置し、調査・研究を行ってまいりました。

今回採択を行う教科及び種目は、国語科は、国語と書写の2種目、社会科は、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図の4種目、数学、理科、音楽は一般、器楽合奏の2種目、美術、保健体育、技術・家庭は技術分野、家庭分野の2種目、外国語、英語、以上9教科、15種目でございます。

必要に応じて、見本本をお手元にお持ちいたしますので、御指示ください。よろしく
お願いいたします。

○坂倉教育長 ただいま、指導課からの説明は終わりました。

では、協議を始める前に、協議方法について確認したいと思います。

採択要綱によりますと、教科用図書選定資料作成委員会の報告を参考にしながら行われることになっておりますので、まずは、資料作成委員会の委員から報告をいただき、その後に協議いただくという形で進めさせていただければと思うところがございます。

日程的には、本日と次回7月29日の2回にわたって、9教科15種目について協議いただきます。それぞれの回の協議が始まる前に、事務局にてあらかじめ用意している用紙を配付いたします。その用紙に、各委員が無記名で推したい教科用図書を記入していただき、協議日ごとに最終の種目終了後に、用紙を事務局が回収し、8月5日の定例会まで事務局にて保管します。そして、8月5日の定例会では、全委員の選定状況を確認しながら、1社に絞り込むという進め方でいかがでしょうか。

なお、絞り込む際に、全員の選定が一致している場合や、過半数以上が選定した種目につきましては、具体的な協議は省略することもできると思います。

その辺のところをお諮りしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 御異議がないようでございます。

それでは、協議の方法については、種目ごとに、教科用図書選定資料作成委員会の報告・説明を受け、質疑を行った後、あらかじめ事務局から配付された用紙に、各委員が推したい教科用図書を無記名で記入。

協議日ごとに最終の種目終了後に、事務局が回収した用紙を8月5日の定例会まで保管し、8月5日の定例会において、各委員の選考状況を確認。その状況により、さらに協議した上で採択するということにいたします。

なお、昨年、小学校の教科書の採択をしたときに私が感じたことですが、この方法は、非常に時間的な節約ができますし、特に5対0のときには、協議も必要ないと思うのですが、一方で、3対1とか4対1になったときに、最終日に御自分の御意見を表明する場もないというところがございます。選択の結果を持ち寄るのですが、せっかく多くの傍聴人の方も集まっておりますし、各委員がどのような考え方で教科書の選定に臨んだかを知りたいということもあると思いますので、今回、作成委員会に対する質疑が終わ

った後に御意見の場を持ちますので、もしありましたら、御意見をいただければと思っております。

では、これより採択にかかる審議を始めますが、その前に興水委員から申し入れがありましたので、その内容をお伝えするとともに、内容についてお諮りしたいと思います。

興水委員からは、「自分は昨年採択対象であった小学校の国語の教科書において、ある出版社の編集委員を務めた。あくまで小学校の国語の編集に携わったもので、他の教科や中学校の国語には関与していない。その意味では、極めて中立に採択に臨む心積もりでいたが、八王子市の公正な教科書採択にいささかの疑念も生じさせてはいけないという思いも強く持つところである。したがって、この出版社が採択候補を出している教科である国語、書写、美術、英語の採択については、棄権させていただき、会場を退席させていただきたい」というものでございます。

この件について、御意見等ございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 御異議ないものと認めます。

なお、本日協議を予定している種目は、国語、書写、地理、地図、歴史、公民、及び数学の3教科7種目であります。審議も長くなると思っておりますので、できれば、間に休憩等もとりたいと思っておりますが、審議状況によってはどうなるかわかりませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、事務局から、意見集約のための記入用紙を配付願ひします。



○坂倉教育長 それでは、これより採択の審議に入ります。

まずは、国語科の国語、続いて、国語科の書写でございますが、この2種目の審議につきましては、先ほどお話がありましたように、興水委員には御退席願ひたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それでは、資料作成委員会から御報告願ひします。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）」部長 国語科部長をさせていただいております、松が谷中学校校長の枝村でございます。よろしくお願ひします。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長 同じく副部長をさせていただいております、檜原中学校校長の堀江でございます。よろしくお願ひいたします。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）」部長 それでは、国語について御説明させていただ

きます。

現在、八王子市で使用している教科書は、光村図書でございます。

初めに、国語科はなぜ重点項目にこの4つを選んだのかという話をさせていただきます。

1番の「話すこと・聞くこと」、3番の「書くこと」につきましては、学習指導要領の観点の一つでもありますし、表現をするということが、現在の社会では、大変重要な項目になっておりますので、子どもたちにぜひつけさせたい力として、選ばせていただきました。

2番の「読み物教材」ですが、読み物教材は、国語科の教師として、子どもたちに読ませたいもの、どの教材を使うかというのは、大変大きなところでございますので、こちらを選ばせていただきました。

最後に、4番の「読書指導」ですが、本市が「読書のまち八王子」であることと、国や都の施策として、読書の推進というのが現在大きく叫ばれているところでありますので、こちらを選ばせていただきました。

それでは、上から観点ごとに説明をさせていただきます。

1番の「内容」と2番の「構成及び分量」につきましては、あわせて話をさせていただきます。

1番の「内容」ですが、5社全てが発達段階に即していると感じています。(2)の興味・関心を引き出す配慮に関しましても、各社さまざまな工夫がされていると思います。

2番の「構成及び分量」に関しては、内容の組織配列はこちらに書かれているとおりでありますが、分量に関しては、学校図書が本編が280ページで、他社と比べると50ページほど多い分量になっております。

基本事項の抑えと補充教材に関しましては、各社が本編で基礎をしっかりと抑え、補充教材を資料編で示してみたり、選択で示してみたりということをしています。

そして、本市の学力の実態、発達教材への配慮のことですが、本市の生徒の実態に全て即しているとは思いますが、学校図書においては、読み物教材本編の分量がやや多いというところ。それから、中学校で学ぶ範囲を超えた発展的な教材、例えば、巻末にある古典文法が掲載されているところから、本市にとっては、やや内容が高度なところがあると思われました。

3番の「表記及び表現」ですが、5社とも見出しの項目がゴシック体で、難解な語句等にはルビ等がふられ、生徒にとって大変読みやすいものになっております。

あと、印刷や写真も大変見やすいですが、学校図書は、文字がやや小さく、写真や挿し絵がやや少ない。ただ、色鮮やかであるという印象を持ちました。

4番の「使用上の便宜」ですが、全体の構成が見渡せるように配慮されているかどうかについては、全て各教材の最初に目標等が示されていて、どのような力がつけられるかということが示されています。あと、学校図書以外の4社に関しましては、教材の参照以外のところにそれぞれの領域別目次というものがあり、そこに、話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと、言語について、1年間または3年間でどのような力をつけていくかというのが一目でわかるような工夫がされています。

あと、課題発見、解決に向けた学習ですが、全て手引き等が示されていて、子どもたちがしっかりとそれに沿っていけば、自分自身で課題を発見して学習ができるといったつくりになっています。

印刷、装丁への配慮ですが、東京書籍と三省堂は古典の本編のところが折り込みになっているので、教科書を使う際にやや使いづらいのではないかというような意見が委員会のほうで出ました。

地域性への配慮は、特にございません。

続いて、5番の「重要調査項目」、(1)話すこと・聞くことの教材についてです。こちらに1点、つけ加えさせていただきます。東京書籍の最後に、「目標が明瞭であり、かつ具体的な資料や指導方法が記載されている」とありますが、東京書籍のみならず、全ての社が、目標が明瞭で、かつ具体的な資料や指導方法が記載されていますので、つけ加えさせていただきます。

どの社も話すこと・聞くこと、話し合いについて、スピーチであったり、プレゼンテーションであったり、話し合いであったり、系統的にさまざまな工夫がされていると思います。ただ、学校図書に関しては、話すこと・聞くことについての全体的な量は少なくなっていました。

2点目、読み物教材についてです。文学作品、説明文、そして古典について調べてみましたが、文学作品の量としては、圧倒的に学校図書のものが多かったです。内容に関しては、現代の作家から、夏目漱石や芥川龍之介などの近代の作家まで、どの社もさまざまにバランスよく取り入れられていました。

説明文に関しても、多様な文章が選ばれており、こちらに関してはどの社もほぼ同じ量の文章でした。学校図書が少し多いように書いてありますが、こちらは、例えば「孫が読む漱石」のように、エッセイ的な説明文が入っているので、少し多く書いてあります。

そして、古典ですが、古典もどの社もさまざまな工夫がされていて、特に、中学1年生の導入の部分に、猫が書かれているものであったり、月に関するものであったり、「徒然草」のある1説であったり、「膝栗毛」の1説であったり、さまざまな工夫がされていました。

続いて、書くことについては、5社とも全て同じような扱いをしていて、実用的な文章から文学的な文章、また、感想文を書くとか、説明的な文章、レポート、報告文、それぞれ工夫がされて書かれていました。その教科書に沿っていけば、しっかりと「書くこと」の文章が書けるという仕組みになっておりました。

最後、読書指導のところ、「読書のまち八王子」に関するところですが、社によって少し冊数は違いますけれども、全ての社で教材の後に、それに関連した本が紹介されています。

そのほかに、最後のほうに読書のページがあって、例えば東京書籍ですと、ワンフレーズを載せて冒頭文を書いていたたり、または、三省堂や光村図書は、それぞれジャンル別に分類がされていて、選びたい本が自分で選べるような読書へのいざないがされている工夫がありました。

以上です。

○坂倉教育長 ありがとうございます。

堀江副部会長のほうで、何かつけ加えることはございませんか。よろしいですか。

ただいま、資料作成委員会の報告は終わりました。国語について、御質疑があればお願いしたいと思います。

○金山委員 大変お疲れさまでした。ありがとうございます。

これから、話し合いをしたり、自分を表現したりということが大事になってくると思うのですが、そういう意味で、重点調査項目のところの話すこと・聞くことの教材というところに注目をして見させていただいています。一つお伺いしたいのは、例えば、ワールドカフェであるとか、グループ新聞であるとか、こういうものを教材として使うということは、どう評価なさいますか。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）部長」 ワールドカフェは、国語の教員でよく勉強されている方は、実はもうかなり前から行っているものです。グループ新聞に関しても、今は合意形成と言いまして、誰かの意見を一つ通すというのではなくて、みんなで意見を積み重ねて、そして合意していきましょうという流れになっていますので、大変価値のあるものだと思います。ただ、国語の学習指導要領の中でも、合意形成ということが大事になっておりますので、他社に関しましても、方策は違うのですけれども入っていることは入っております。

以上です。

○坂倉教育長 ほかにございませんでしょうか。

○星山委員 今現在、光村図書をお使いということなのですが、実際に教えていらっしゃる先生方のほうから、今の教科書はどうだというような御意見がもしありましたら、参考に伺いたいのですが。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）部長」 使いやすいということは聞いております。

○坂倉教育長 他にございませんでしょうか。

○和田委員 どうもありがとうございました。

細かいことになってしまうのですが、いくつか教えてください。

今回、教科書を開いてみると、最初の部分に、この單元ではどんな内容を指導すべきかということが、かなり丁寧に示されていますよね。この最初の部分にある、こういことを学ぶのだよということを、授業の中で最初に指導されるのですか。

というのは、最初にこういうものを学ばなければいけない、つまり、学びの観点をきちんと生徒が理解をして学ぶということは大事だと思うのですが、これは、ある意味で先生方の指導の部分であって、生徒たちがこれを意識して学習をきちんとするようなものになっているのか。つまり、いきなり作品に入る前に、こういうことを勉強するのですよ、こういう内容で使用するのですよということが言われている中でいろいろな作品の取り扱いになっているのですが、こうやって前の部分に示されている指導項目というのは、先生方の中ではどのようにお使いになっているのか、これがまず1点です。

2つ目は、どの社も扱っている作品等の後に、これをどう解釈するかとか、何を学ぶかというような視点が示されているわけなのですが、作品の下段のところ、ここではこういうことを考えましょうというようなことが次々に示されているところと、ほとんどそれがなくて、後半のほうのどういう学びになっているかというところで扱おうとし

ているところがあって、要するに、作品を純粹に読んでいく考え方と、その都度ここを考えなさい、あそこを考えなさいというような指示が出ているものがあるわけです。指導者側の指導の観点はわかるのだけれども、生徒にとって見ると、その作品をきちんと読んでいろいろなものを感じているわけで、それをその都度、いろいろな指示が出ているという進め方とか、教科書のあり方というのはどうなのかということ。

あと、社によっては作品の本文に読み仮名を振ってなくて、下段のところとその読み方が書いてあるところと、いきなり文章の本文の中に読み仮名を振っているところがあるのです。それについては先生方はどのようにお考えになっているのか。

あと一つ、国語の教科書も大分ドリル化されてきて、漢字の練習であるとかいろいろ出ているのですが、このドリルの量というのは、実際の授業の中でやり切れているものなのかどうか。あるいは、家庭学習として扱うようなものになっているのか。その練習問題の量ということについては、どんなお考えを持っているのか。その辺を少しお聞かせください。

○坂倉教育長 とりあえず4点の質問だと思いますが、よろしくお願いします。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）」部長 1点目ですが、目次のところに目標等が書かれておりますけれども、これは、子どもたちに学ばせたい力ということで、領域別に構成されております。教科書によっては、最後のほうにあたりもするのですが、全て同じことが教科書の初めの部分にも書いてあります。ですから、同じ読むことについても、今回は登場人物の心情について考えましようだとか、今回は構成について考えましようとか、やはり3年間、学習指導要領の中で学ばせなくてはいけないものがあって、教員としては、それに沿ってしっかりと子どもたちに学ばせていけば、学習指導要領の力がつくということになっておりますので、先生たちには、ぜひそれをきちんと踏まえてやってもらいたいところですが、また、子どもたちにとっても、こういったことを勉強しなければいけないということが身につくのではないかと思います。それが1点目です。

2点目ですが、ここではこういうことを考えましようということが下のほうに書いてあるものと、最後にまとめて示されている教科書があるということですが、これも先生たちの使い方によっていかようにもなりますので、大きな差はないのではないかと感じています。

3点目ですが、作品本文にルビがあるか、下にルビがあるか。これも、特に調査委員会では話題になりませんでした。

4点目の漢字の学習に関しても、特に調査委員会のほうでは話題にはならなかったところなのですが、教科書にある言葉や漢字というものは身につけなければいけないものなので、ドリル化されて、クイズ形式で書かれていたり、より学びやすくなっていて、子どもたちに興味・関心を持たせるためにいいのではないかと思っています。家庭学習にするか学校で行うかというのは、多少先生たちの裁量が入ってくるかとは思いますが。

以上です。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

では、私からも2点ほどお聞きします。まず、重点調査項目の4番目に読書指導が出ているところは、文科省の方針もあります。御承知のとおり、「読書のまち八王子」も進めていますし、私自身も読書というのは力を入れてやっていきたいと思っていますので、すごくありがたいと思っています。

先ほどの説明の中で、そんなに差がないというような説明があったのですが、私の受けた感想では、ある2社と他の3社では、かなり本の紹介の仕方が違うと思います。言ってみれば、本好きでない子どもたちにも、自然に勧めるような感じがあった会社もあって、私自身は評価しているのですが、その辺のところはどうかというのが1点。

もう1点は、今回の学習指導要領の改訂の中では、考える力というのを非常に強く出しているところ。一方で、中学校の場合は小学校と違い、教え込むと言いますか、覚えさせる点もかなり強いのですが、それでもやはり教科書を見ていて、考えさせる、あるいは問いかけるような内容の教科書と、割と昔の形の教科書があったような気がしました。そここの議論があったのかどうか、お聞かせいただければと思います。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）」部長 1点目の読書に関しましては、大きな差はないのですが、解説があるものとないもの、それから、例えばその筆者のワンフレーズを載せているものと載せていないものがあったり、あとは、ジャンルごとに書かれているものがあったり、そこら辺は、子どもたちの興味・関心を引きやすいし、また、こちらが指導するにもいいですねという話が出てきました。

2点目の思考判断・表現については、多少先生がどう教えるかにもよってくるかと思うのですが、特に大きな議論は出てきませんでした。

以上です。

○坂倉教育長 ほかに御質疑はございませんでしょうか。

○星山委員 私は、八王子の子どもたちの学力や実態と、教える先生方の力とのバランスが

とれた教科書がいいのではないかと思うわけですが、八王子では、国語を教える先生方の層といいますか、もし、実態でお感じになることがあれば教えてください。例えば、若手が多いとか、教える力が十分のベテランの先生が多いとか、あるいは、子どもたちのほうも割と学力の差が開いているのではないかと思うのですが、その辺のところをもしお感じになっていらっしゃるならば、参考に教えていただけるとありがたいです。

○枝村教科別調査部会「国語（書写）部長」 子どもたちについては、本好きな子どもとそうでもない子どもは、とても差があると思います。先生方に関しましては、私は5年目で、市のほうでも都のほうでも国語にかかわっているのですが、大変優秀な先生が集まっており、その先生が八王子を引っ張っているなど感じております。

ですから、調査委員にはならなかったのですが、教科書にかかわっている先生も、何人かおりました。

以上です。

○坂倉教育長 ほかに御質疑はございませんでしょうか。

御質疑がないようなので、委員のほうで御意見といいますか、自分はこんな印象を受けたよとか、こんな点に注目をした等ありましたら、御意見をいただければと思います。

○和田委員 私も、各社、本当によくできているなど思っているのですが、先ほど質問をさせていただいたのは、要するにこの国語の扱っている教材というか、作品等も含めて、本当に多岐にわたっていて、これを先生方が御指導されるのも大変なことだろうと思いますし、生徒たちも、いろいろな分野の内容をこういう機会に触れながら学んでいくのだなというのを本当に実感したのですが、私自身は、やはりできるだけさまざまな分野の内容を取り上げながら、いろいろな読書ができる、あるいは、ものを考えるような、そういう多様な内容が扱われているものがないのではないかと考えています。

あわせて、多様であればあるほどいろいろな考え方があっていいわけで、これを文章解釈だけで終わらせてしまったりというような授業展開ではなくて、やはり子どもたちの感性やものを考えるということを大事にしたような教科書であってほしいと思っています。少し抽象的になりますが、作品の範囲の豊かさとか、あるいはその教材をどう扱っていくかというところの幅の広さ、観点の広さみたいなものを、私は、国語の教科書に求めたいと考えています。

○坂倉教育長 ほかにございますでしょうか。

では、私からも1点なのですが、昨年お話をしたのですけれども、私は、結果としてですが、なるべく教科書は変わってほしいということを申し上げました。多分現場の先生方は、困った教育長だと思ったかもしれませんが、やはりものが変わることによって、先生方も新たに勉強をし直すという形があるだろうと。

ただ、そういう結果として、昨年かなり小学校は教科書が変わって、心配もありましたので、私自身学校回りをしながら、各校長先生方にいろいろお話も聞きました。そうした中で、去年、たまたま国語の教科書が変わらなくて、算数が変わったのですが、ある学校の4年生のテストの結果を先生に聞きましたら、結果として算数が上がって、国語が変わらなかったというような話があって、少しほっとしました。それと同時に、変わるということで大変さはあるのですかと聞いたら、教科書が決まれば、その後に年間指導計画をしっかりとつくるし、その結果として授業日数も決めていくからということだったので、少し安心して、積極的に変えていくというか、結果として変わっていけばいいのではないかと一つ思いました。

もう一つは、私は非常に読書に思い入れがあるものですから、去年、教科書採択のときに読書のことをどこかで話せるかと思ったら、結果、たしか3対1対1か4対1で私が推したところが負けて、意見を言う場がなく、最後につけ足しのように言ったのですが。やはり読書は教え方も難しいのですけれども、今、特に中学の不読率が上がっている中では、文科省の進めているとおりに、読書がものの基本だと思うと、明らかに2社とほかの3社が違ったというのが、私が受けた一つの印象です。

それからもう一つ、先ほど言った、教えるという観点からいったときに、学ばせるといふ観点と、学んでもらいたいという観点の違いが少しあったかなという印象がありました。そうした中で、現行の出版社は、非常に視野も高いし、本当に実績もあるところですが、そういう意味では非常に無難なつくりをしているのだなと思いました。今の指導要領が求めているものに対して、完全に答えているのかなという意味で、私は、少し気になる場所があったということです。

ほかに、御意見等ございますでしょうか。

○星山委員 国語は、結構個人差があると思っていて、私自身は大変国語が好きで、教科書はとても楽しみだったなと思うのですが、今の大学生等々を見ていると、やはり本を読まない子どもたちもおりますので、それだけに教科書はとても大事ですし、どの子にとってもいい教科書を選ぶのは難しいなと思いました。

それで、どの教科書も大変よく工夫をされているなと思ったのですが、だからこそ、これで終わるのではなくて、ここからいろいろな世界観であるとか、読書であるとか、物事を考えるとか、対応することであるとかというところを開かれていくためのきっかけという位置づけで、私は考えたいなと思いました。

以上です。

○坂倉教育長 金山委員、よろしいですか。それでは、御意見等もございませんので、次の種目に移りたいと思います。

書写について、資料作成委員会から御報告願います。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長 それでは、書写について御説明させていただきます。現在、八王子市で使用している教科書は、教育出版社です。書写も5つの教科書会社から出されております。どの会社も、小学校からの書写学習の基礎・基本を押さえた上で、確実に書く力を養うこと、そして、それを実生活に生かそうとする態度と力の育成に重点が置かれております。

また、学習の内容や手順を明確にすることで、限られた授業時間で無理なく自学自習ができるように編集されております。

それでは、調査の観点に従って御説明申し上げます。

まず、内容です。報告書に記載されているように、各社とも、そのような配列になっております。どの会社も、毛筆は1、2年生で重点的に扱っております。

教育出版社と学校図書が3年生で行書、仮名の教材を取り上げておりますが、ほかの出版社は、実生活に関連した教材となっております。

各社の特徴的なところを挙げますと、東京書籍は、「調べよう」「確かめよう」など、筆のキャラクターを用いて生徒の興味・関心を引き出し、技術的なコツも明示しています。発展的な内容としては、自己PRカードや願書の書き方、書写テストなど、生徒が身近に感じ、取り組みやすい教材が取り上げられています。

学校図書は、同じくキャラクターを使って学習のポイントを明示するとともに、最後の「振り返って」によって、学習の定着が自分で確認できるようになっております。また、最初の「書写の窓」では、なぜ毛筆を勉強するのかという生徒の疑問に答え、中学校における毛筆の学習の意義を述べております。各単元の最後に「硬筆で書いてみよう」が配置されており、毛筆の学習内容が確認できるようになっております。また、文字の歴史や関連する資料が各単元の最後に配置されており、生徒の関心・意欲につなげています。

三省堂は、内容とはかかわってこないかもしれませんが、教科書名が「現代の書写」となっております。考える書写を基本方針にして、自ら文字に向かい合う学びをめざしているということです。学習の流れは、「考えよう、話し合おう」、「書いて確かめよう」、「振り返ろう」の3段階としております。また、こちらも単元の終わりに学習のまとめが配置されております。

教育出版は、量的にも厚みを感じますが、基礎・基本から発展まで、たくさんの内容が網羅されております。表紙の裏は見開きになっており、書写の目的が詳細に記されております。単元の終わりの「確かめよう」では、学習の定着をチェックできるようになっております。また、第2学年で扱う「枕草子」や「走れメロス」など、国語の教材と関連した親しみやすい教材を多く取り上げています。

光村図書は、最初に小学校で学習した書写の基礎・基本を基礎編として配置しております。学習編では、教材の説明部分において、学習のポイントを四角や括弧に書き入れる形式で、生徒自ら発見する活動を入れております。コラムでは、「デザインと文字」など、文字文化への関心を高める教材が入っています。資料編の「活用のヒント」は、読書環境や情報発信など、日常生活や学校生活に役立つ資料が載っております。

続きまして、構成・分量です。東京書籍、光村図書、三省堂は、資料として40ページから50ページの扱い。学校図書、教育出版は、10ページから20ページと、分量が変わっております。ただ、ページ数が少ない会社は、単元末教材や3年生の教材の中で扱っている形になっております。

また、毛筆の手本ですが、東京書籍、教育出版、光村図書は、毛筆の朱墨の手本があります。三省堂、学校図書は、朱墨手本の記載はありません。

東京書籍は、1、2年生は、基礎・基本とともに、職場訪問など学校生活に関する発展につなげております。各教材に3段階からなる「調べよう」「確かめよう」「広げよう」により、主体的な学習ができるようになっております。

学校図書は、1年で、基礎・基本、2、3年で発展的な学習に進みます。3年生は、今までの学習の振り返りとなっております。各単元に発展課題があり、発展教材は、実生活に即したのものや、書の世界に触れたものなど幅広く扱っております。

三省堂は、全体的に分量が少なめですが、日常生活に生かす教材は、多く掲載されております。

教育出版は、行書の手本が段階を追って示され、先ほども申しましたが、国語と関連し

た教材や防災、環境教育など、目的意識がはっきりした発展的な教材も取り上げています。

光村図書は、「基礎編」「学習編」「資料編」の3部構成になっており、資料やコラムのページは内容が多岐にわたっております。

また、手本の筆遣いのポイントは、生徒にとってわかりやすく明記されております。

続きまして、表記及び表現です。東京書籍と学校図書と教育出版は、見開きの形で手本がいくつか掲載されており、右と左で一つの手本ということになっております。光村図書と三省堂は、片面だけで手本となっており、その裏に説明が置かれている、または前に説明が置かれているという形になっております。書き初めの手本の位置も、各社それぞれ使いやすさと見やすさなどがかわってくると思います。最後におさめられているもの、各単元の間配置されているものがあり、特に生徒にとっての扱いやすさが関係してくるのではないのでしょうか。

使用上の便宜は、どの会社も目次によって全体が見渡せます。東京書籍は、各学年の目標が丁寧に明記されております。学校図書は、シンプルで単元名のみ記載となっておりますが、学習の流れについては、次のページに記載されております。三省堂、光村図書は、目次のページに学習の取り組みが記載されており、流れと方法が確認できます。

最後に、重点調査項目です。

まず、毛筆の内容について取り上げました。前回の採択の際は、硬筆を取り上げたということですが、今回は、どの教科書を見ても、かなり実生活とのつながりが重視され、願書や宅配の記入用紙の書き方なども取り上げられております。

書写、とりわけ毛筆の美しさや重要性や技術を学ぶ機会は、大人になってからはなかなかありません。中学校の段階で、その意味や文字の書き方の基礎形を学ぶことが、一生続くものだという議論がなされました。毛筆に重点を置いて、美しい文字を書こうという意欲や、その技術を育成するという意味で、毛筆の内容を取り上げました。報告書にかなり細かく記載してありますので、見ていただければと思います。

毛筆の単位数を見ると、各社の違いがはっきりしております。学校図書、教育出版が、数的には3年生まで教材として取り上げられています。各社学習指導要領に則って、1年では楷書で基礎・基本、2年では行書を通して日本の文字の美しさを確認するとともに、技術の向上をめざしております。この毛筆の量等の扱いも、採択のポイントになるのではないのでしょうか。

次に、伝統文化に対する取り扱いです。これは、前回の採択のときにも重点事項にした

そうです。日本文化である書に対する理解を深めることが、これからの日本人に求められます。2020年には、東京でのオリンピック・パラリンピック大会が開催されます。そうしたとき、中学生である生徒たちが中心となって、日本文化を紹介しなければならないので、これから大人になってもなかなか学習する機会がないと思われまので、中学生である今、書に対する理解と興味・関心を高めていく必要があるという議論がなされました。

各教科書が多くの資料を教材としておりますが、学校図書は、伝統文化の体験の発展教材、教育出版は、建物と書の関連など多岐にわたっております。なかなか知る機会がない生徒にとっては、どれも貴重な教材だと感じております。

最後は、生活に生きる書写。これも前回の採択で取り上げられました。書写の授業で学習したことを実生活に生かすことは、とても重要です。どの会社もかなり力を入れていると感じております。重点として、多くの例が挙げられております。東京書籍、三省堂、教育出版などには、防災、自然災害などの取り扱いもあります。また、教育出版では、オリンピック・パラリンピックについても扱っております。実生活に生きる教材は、だんだん多く取り上げられてきたという印象があるということも議論になりました。数だけではなく、内容や配置のバランス、配色など、配慮する必要があります。特に最近では、特別支援を必要とする生徒などもかなり増えてきたので、こういう点に配慮が必要ではないかということも議論として挙がりました。

以上で、説明を終わらせていただきます。

○坂倉教育長　ただいま資料作成委員会の報告がありました書写について、御質疑はございますでしょうか。

○和田委員　まず、書写の時間設定を教えてください。どの程度の時間やっているのかというのが一つです。

2つ目は、毛筆以外に、学校の中で生活で使われる文字を具体的に書く、例えば、手紙であれば宛名書きをすとか、そういう例として、今どのようなものが行われているのか。たくさん例が示されていますが、実際にはどの内容が多くなっているのか、その辺を教えてください。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長　時数的には、1年生が20時間、2年生も20時間で、3年生が約10時間ということになっております。

それから、2つ目の質問ですが、実際に文字を書く機会というのは、例えば、年賀状、暑中見舞い、ポスター、それから、各行事を行ったときの新聞であるとか、そういうも

のを取り扱っております。

○坂倉教育長 和田委員、よろしいですか。

ほかに御質疑はございますでしょうか。

○星山委員 先ほどの国語の教科書と書写の教科書は、違うところでも特に問題はないのでしょうかということと、先ほど、特別支援が必要なお子さんが増えているということでしたが、実際に教えていて、例えば、見開きがきちんと一面で見られたほうがいいのか、表裏にするとそこでつまづく生徒が多いとか、その辺の具体的なところを教えてください。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長 国語の教科書と書写の教科書の関連性ですが、これは特に議論にはならなかったのですが、できれば同じほうがいいのではないかという意見もありましたし、また、全く関係なくてもよいのではないかという反対の意見もあり、両方の意見に分かれました。

続きまして、特別支援の生徒に対する配慮ですが、やはり色使いであるとか、教科書の中の配置であるとか、先ほども言いましたが、真ん中に手本が折り込まれているとか、後ろに折り込まれているとか、そういうところで子どもたちは非常に扱いにくさを感じたりします。また、教科書自体の大きさ、机の上にどう置くかということですね。例えば、書写であれば墨を置いたりなどしますので、大きさの配慮も必要なのではないかと感じております。

○坂倉教育長 現行でも、国語と書写は会社が違うのですが、先ほどの説明の中で、国語の教科書で出てきた題材を手本にしているものが多かったという御説明があったのですが、会社の意図としては、作品を味わった後に自分で書いてみる価値があると思うのですが、その辺のところ、同じ会社がいいという意見や、その反対の意見があったというあたりをもう少し聞かせてもらえるとありがたいです。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長 はい。同じであれば、つながりが明確で扱いやすいと思いますが、先ほども言いましたように、「枕草子」や「走れメロス」というようなものは、必ずしもその会社だけが載せているものではないので、会社が違っているからといって、そんなにかげ離れたものではないと感じるのではないかと思います。

○坂倉教育長 ほかに御質疑はございませんでしょうか。

○金山委員 書くという動作をそもそもしなくなってきた現代で、毛筆はとても大事なことかなと思うのですが、3年生にお手本の配置がないということは、3年生ではやらなくても

よいということなののでしょうか。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長　いえ、そうではなく、毛筆としてこういう大きな形で配置されてはいたませんが、ただ、生活の中で実用的にしっかりつなげていきましようという取り扱いはされております。

○坂倉教育長　ほかに御質疑はございますでしょうか。

これも重点のところ、「生活に生きる書写」の話の中で、先ほども、防災や五輪のことまで扱っているところがあったという話が出たのですが、実用的な書くものとして取り上げられているものが、会社によって違うではないですか。どちらかという、旧来的なものし袋みみたいなものを中心にしてるところもあれば、職場訪問のときの書類のようなものが中心のところもある。実際に教える中で、その辺のところの議論などがあれば、少しお聞かせ願えればと思っています。現場ではどういうほうがいい、これはこうだなということがあったら、聞かせてほしいです。

○堀江教科別調査部会「国語（書写）」副部長　実用的なものとしてこれらの教科書に挙げられているものは、代表的なものとしては願書、それから自己PRカード、あと、宅配便の記入用紙というようなものが載せられております。

特に、願書や自己PRカードは、子どもたちは非常に興味を示しますし、それを見ながら、どういう点に配慮して書かなくてはいけないかなどを考えながら記入をしておりますので、子どもたちにとってはよいものではないかと思えます。

○坂倉教育長　ほかに御質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長　では、御質疑がないようですので、資料作成委員会の方々、本当にお疲れさまでございました。御退席なさって結構です。

次に移るまでの間に、各委員から御意見がもしありましたら、お願いしたいと思います。

○和田委員　大学で学生を指導していると、驚くような現象に出会います。その中の一つとして、はがきや手紙の宛名書きができない。宅配便等であれば、ここに何を書きなさいという指示があつて、その枠の中に書くわけですが、封筒の表にどこに何を書かかというのが書けないのです。そういう学生等もいるので、先ほど、書写の時間が1年、2年、3年それぞれ20、20、10という数字を挙げられたわけですが、この時間は、書く時間をぜひ確保してもらいたいなと思っています。そういう実際に書くような場面の取り扱いがある書写の本であつてほしいと思っています。解説はいろいろ楽しい部分もあると思うので

すが、実際に書くということを中学校時代にたくさんやっておいてほしいという思いで見
ております。

○坂倉教育長 他に御意見はございますでしょうか。

私も字を書くのが下手なのですが、昔の教科書は、本当にお手本しかなかったのですけ
れども、今回のような実用的な形というのは、非常に今の子どもたちに合っているのかな
という思いを持ちました。そういう中で、どのような形がいいか、自分なりに考えたところ
でございます。

それでは、ほかに御意見もないようでございますので、次の種目に移ります。

事務局は、興水委員をお呼び願いたいと思います。



○坂倉教育長 それでは、続いて地理に移ります。

資料作成委員会から御報告を願いたいと思います。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長 それでは、社会科地理、地図部会部長を
務めさせていただいております、陵南中学校校長の川口でございます。よろしくお願
いいたします。

○井上教科別調査部会「社会（地理、地図）」副部長 副部長を務めさせていただきます、第
七中学校副校長の井上と申します。よろしくお願いたします。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長 それでは、報告をさせていただきます。

現在、本市の地理の教科書は、教育出版でございます。1番、内容に関してですが、
私が今回各教科書会社の教科書を見させていただいたときに、まず内容のつくりが非常
に似ているなと思いました。社会科の場合、通例、見開き左右2ページで1時間扱いと
いうことで、今回各社の教科書は、左側のページの上に学習課題がまず記載されていて、
折り目に沿う形で左右本文が上から下に流れるように書かれおり、その周りを囲むよう
に写真、地図、グラフ、表、コラム等が多彩に配置されていて、右下のところはその時
間の学習を終えてのまとめの課題が置かれております。この形は全社ほぼ同じ形ござ
います。

そこでの違いは、東京書籍はその最後の課題が1題だけです。教育出版、帝国書院、
日本文教出版に関しては、最後のまとめの課題が2題ずつ用意されており、1題目は比
較的簡単な課題、2題目は少し子どもたちにとっては高度な課題というふうになってお
ります。東京書籍の1題だけの課題は、各社にとっては2題目のやや高度な課題に当た

る課題設定になっていると思います。

本市の学力の実態へ配慮というところですが、社会科の地理、地図部会では、八王子はかなり広い地域で、たくさんの生徒がいるということ、また、地域よっての学力差もあるというところで、幅広い学力に対応できる教科書であるのかどうかというところで捉えてみました。そうしますと、東京書籍の教科書は課題設定がかなり高度であるのではないかと感じております。

2番目の構成及び分量ですが、各社とも学習指導要領に則って構成されております。世界編での一つの違いは、世界の州の並び順です。東京書籍、帝国書院、日本文教出版は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアとなっております、これは学習指導要領に並んでいる順です。教育出版のみ、アジアの後にアフリカ、そしてヨーロッパということで、アフリカとヨーロッパがひっくり返った形で構成されております。

次に、日本に関しては、各社とも九州から始まり、北海道まで南から北へという並び順で構成されておりますが、1点大きな違いは、日本の地理に関しては、学習指導要領でそれぞれテーマづけをなささいということです。そこで7つのテーマがございます。環境、都市と村落・人口、歴史、産業、他地域との結びつき、生活・文化、最後に自然ということで、これに関し、東京書籍、教育出版、日本文教出版は、今、私が言った並び順で、九州は環境、中国、四国は都市と村落・人口というような並び順でそれぞれの日本の地方をテーマづけして学習する形になっておりますが、帝国書院だけは全く違ったテーマづけでつくられております。九州が自然、中国・四国が他地域との結びつき、近畿が環境、中部が産業、中部の産業だけは他の3社と同じです。関東が人口・都市、東北が生活・文化、北海道が歴史という構成で、全く違った形になっております。

3番、表記及び表現ですが、これは先ほど1番でも申しましたが、各社とも本文以外にかなりたくさんの要素をページの中に詰め込んでおりますので、さまざまな観点から地理を学習するという意味では、昔のような文字だけの教科書ではもうなくなってきていると感じております。

使用上の便宜ですが、社会科で重視されるものの一つに、気温図というものがございます。一つのグラフの中に気温の変化と降水量の変化をまとめた図です。それに関し、世界のほうは、東京書籍は東京との比較で載せております。教育出版は東京との比較はございませんが、地域ごとに北半球と南半球を必ず一つの気候で載せております。帝国

書院は、1 ページに全ての地域の気候を一旦載せて、それぞれのところでまた東京とその地域の気候の比較の雨温図を載せております。日本文教出版は、世界の雨温図を1 か所に載せると同時に、東京との比較でまたそれぞれの場所に雨温図を位置づけて載せております。使う側の使い勝手としては、1 か所に並んで全体比較できるということは大変ありがたいかなと思います。

あと、日本の気候に関しましては、各社とも1 か所にまとめて日本の各気候を見られる配置にしております。

重点調査項目に参りまして、(1) 他分野等との関連というところですが、東京書籍と日本文教出版は、他分野との関連を示すマークがあります。ただし、これがある、ないということはあまり大きな差とは感じておりません。若干、日本文教出版の分量が資料の上では少なく見えますが、小学校との関連のところをここでは省いておりますので、小学校との関連の部分を入れると、各社とも分量に大きな差はないと思います。

(2) 自らがテーマを設定し、探究する学習への配慮がなされているかというところですが、御覧になっていただければわかりますが、各社ともさまざまな課題を各所に散りばめておりますので、恐らくこれを全部やっていたら授業がなかなか進まないくらいの分量ですが、それは教員の裁量に任されていて、ここで使いたいというところで使えるように各所に置いてあるのだと判断しております。

最後になりますが、これからは能動的学習、アクティブラーニング等が非常に必要になってくる時代だと思います。そこへの対応で、社会科では、世界のさまざまな地域の調査であるとか、身近な地域の調査というところが一番そこに近い部分になると思いますが、東京書籍と日本文教出版はその説明のところでは具体的な説明がされていると思いました。どこが具体的かと申しますと、例えば、IT、インターネットの使い方の説明が入っていたり、資料の図が、実際に生徒が手書きで書くようなスタイルの図の書き方をしていたりというところで、生徒にとっては使い勝手がいいのではないかと思います。

以上です。ありがとうございました。

○坂倉教育長 お疲れさまでした。ただいま、資料作成委員会の報告は終わりました。地理について御質疑はございませんでしょうか。

○興水委員 今、御説明がありましたが、帝国書院だけ視点が違っているというお話があり、それからもう一つ調べてみますと、例えば、近畿地方であるならば、普通考えると歴史

というのがどうしても中心になるのかなと考えるのですが、近畿地方のところが環境問題、さらに関東地方のところが他地域との結びつきとなっています。帝国書院がそういうふうに変えられたというのは、何か調査委員会のほうでは意図を把握していらっしゃるでしょうか。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長　残念ながらそこまでの踏み込んだ議論はなされなかったのですが、私見になりますけれども、他の3社はある意味で一般的な視点でつくられていると思いますが、あえてそうではない新しい視点を取り入れるという考えがあったのではないかと個人的には感じております。

○坂倉教育長　他に御質疑ございませんでしょうか。

○和田委員　今も説明の中にありましたが、教育出版社が州の並びの順番を変えていると。このことについて何か委員会の中で御意見等があったかどうか、あるいはその意図をどのように御理解されているのか、その辺のところはまず1点目。

2点目は、これだけ写真やグラフや資料がたくさん出てきているわけなのですが、このほかに後で地図が出てきますよね。それから、これ以外にさらに学校では資料集等は活用されているのかどうか、その辺のところを少し教えてください。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長　世界のほうの並び順に関してですが、一般的にはユーラシア大陸というくくりで、アジア、ヨーロッパは一つの大陸ですのでつなげて学習するパターンが多いと思いますが、教育出版社がなぜそこを変えたのかというところは、調査部会のほうでは出てきませんでしたので、すみませんがお答えできません。

あと、これだけグラフや資料も多く、さらに地図があって、それ以外に資料集を使うのかということですが、資料集に関しましては、使う確率のほうが高いと私の見た範囲では思います。

○坂倉教育長　今、特に議論がなかったと言いましたが、資料の中で、わざわざアジア州やアフリカ州についての記載が充実しているというふうにしていますよね。要するに、意図かどうかわかりませんが、どちらかというといわゆるヨーロッパ思考だったところを、アフリカに力を入れているというのは明らかに見えるのですが、その辺の議論はなかったのですか。明らかに、アフリカの記載が充実しているというふうに書いてあったのだけれども、その辺はどうなのですか。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長　すみません、言葉不足でした。

まず、東京書籍はアジアが充実しているというのは、東京都の資料にもありましたが、扱っているアジアの国数が44か国で、これは教育出版の47か国に次いで2番目に多い国数を扱っているということで、アジアが充実しているという文章にさせていただきました。

教育出版は、アジアの数は47か国で、4社の中で一番多く扱っており、また、アメリカに関しては54か国ということで、取り扱いの少ない教科書に比べると倍以上アメリカに関して触れているということで、充実しているというふうに書かせていただきました。

帝国書院は、ヨーロッパに関して、54、55、57、59、及び61ページあたりの写真や表が、ヨーロッパの多様性とEUの統一という、その両面から見て非常に他社の資料よりもよくわかる資料を採用しているというところで、ヨーロッパに関して挙げさせていただきました。

最後の日本文教出版に関しては、世界の編集の方針が他社と少し違って、日本のようにそれぞれの世界の各州であるテーマを設けて、全体ではないのですが、例えばヨーロッパの場合は統合による社会の変化というページを6ページつくって、そこに焦点化した教材づくりをされております。あと、アジアに関しては経済成長という視点でページづくりをされているところで、そういう意味では非常に構成がすぐれているのではないかと感じました。

以上です。

○坂倉教育長 資料からも読めるけれども、順番が違っていると言うだけだと、それだけ通ってしまうではないですか。わざわざ和田委員が質問していて、資料にも書いているのだから、最初からそういう説明をしていただかないと、我々や皆さんは東京都の資料も見ているけれども、傍聴の方はその辺を聞いていないので、ぜひ今のような説明を最初からしてほしいと思います。

ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○和田委員 そうすると、地理の授業というのは、資料を見て、地図もやって、教科書のこれだけのいろいろな情報を集めて、それで授業を展開しているわけですね。これ以外に例えばDVDを使ったり、写真の大判のものを提示したり、あるいは大きな地図を開いて黒板のところに掲げたり、そういう授業を行っているわけですね。そうすると、いろいろなデータが示されているものが、この文章の中に集約され、整理されているの

かということなのです。つまり、ビジュアルや感覚的にはああこういうことなのかというのわかるのだけれども、今扱っているテーマについて、文章できちんと整理されているかということなのです。要するに、資料の分量と中に書かれている文章のバランスの問題が非常に気になるところです。たくさん資料を示しておいて、文章が少ししか出ていないということは、子どもたちは感覚的にはわかるけれども、今、自分たちが何を学び、これらの資料は何を示しているのかということが、文章量が少ないとよくわからないのではないかと、整理できないのではないかとというようなところで、ほかの歴史にしても公民にしても同じなのですが、資料が多くなり過ぎてしまっているということはお感じになりませんか。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長　それはとても感じました。調査部会の中でも、文字資料よりも周りのビジュアル資料のほうが当然目につくわけで、これはもう教科書というよりは資料集化してしまっているのではないかという話がありました。したがって、多くの教員は別にワークシート等をつくって、必要なところは別の文章資料にまとめるというようなことを行っているパターンが多いと思います。

○坂倉教育長　ほかに御質疑ございませんでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長　それでは、次に移る前に、各委員のほうで御意見がありましたらお伺いします。いかがでしょうか。

○興水委員　先ほどからお話があるように、非常に多様な、また多くの資料があるというのをいのように解釈するのか、また、子どもたちは一体どこに焦点を当ててこれを見ているのか、どういう解釈するのか、私どもも困るところではあります。

私は4社見させていただいて、どの社も頑張っていらっしゃいますが、特に調査の段階で、最後に調査をしてプレゼンをする、発表するということとどまっている会社と、さらにそれを行動に移すというところまで書き込んでいる会社があったということに、非常に思いを深くいたしました。

社会科は特に、自分の中でどのように学びを生かすかということが大事だろうと思いますので、そういうところまで書き込んでいるところはよいのかなと思ったのが1点です。

それからもう一つ、言語活動というところが、今般の学習指導要領ではどの教科等にも大事だと書いてあり、そこら辺をどのように評価するか。全て言語活動ではあるので

すが、意図的にそれを用いている、または子どもたちに意識させているところというのが何社か見受けられたというところがよかったなと思います。これが2点目です。

3点目は、キャラクターがたくさん出てくるのですが、このキャラクターを学校ではどのように扱っていらっしゃるのかというところを見ていきたいと思ったところではあります。調査部会の先生方に、キャラクターのことについてまでとは思いますが、名前にしろ、服装にしろ、さまざま気になったところです。

以上です。

○坂倉教育長 ほかに御意見はございますでしょうか。

○金山委員 今、興水委員のおっしゃった、行動まで結びつけているというのに関連するのですが、やはり地理ですので、防災といいますか、災害に関しての記述をきちんとしていいるところがいいのではないのかと思いました。それがすっと子どもたちの中に落ちて、八王子にいても、将来的にどこでどういうことがあるかわかりませんので、その行動につながるような書き方だととてもいいなと思いながら見ておりました。

○坂倉教育長 ほかに御意見ございませんでしょうか。

最近、地理と地図帳が分かれて、これから地図帳をやるのですが、教科書の中で地図帳の使い方というところに注目している会社がありました。頭に入っている子もいるのでしょうけれども、やはり常に見ていく中では、地図帳の使い方というあたりを丁寧に説明しているところはなかなかいいなと個人的には感じました。

ほかに御意見もないようですので、次に地図に移りたいと思います。



○坂倉教育長 地図について、資料作成委員会から御報告願います。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長 地図は2社でございます。現在、本市では帝国書院を使用しております。1の内容に関してですが、東京書籍のほうが若干ページ数が多く、写真、グラフ等が大きく、ゆったりとした構成になっております。帝国書院は、全体のページ数の中で地図のページの割合が高く、その結果、資料、統計等の部分はコンパクトになっております。

また、色合いが東京書籍は非常にしっとり落ち着いた色合いのつくりになっております。帝国書院は、全体的に明るい色の構成になっております。

本市の学力への配慮という点ですが、これは先ほども申しましたように、学力層の幅が広い生徒たちに対応できるかどうかという視点で見ますと、東京書籍に関しては

写真やグラフが大きく見やすい。あと、統計資料のスペースをゆったりとっていて、両方面から見やすつくつられていました。

帝国書院に関しては、これは後ほども説明しますが、イラスト等を非常にたくさん使用しております。また、統計等のページは、ページ数的には少ないのですが、項目は多くなっておりますので、そういう意味では生徒のさまざまな学習の要求に対して応えられるようなつくりになっていると思います。

次に、2番の構成及び分量ですが、先ほど申しましたように、ページ数は東京書籍のほうが若干多いわけですが、地図の割合は帝国書院が多くなっております。これは、東京書籍は資料のページが多いということで、資料集的な側面も持ち合わせた地図帳ということ。帝国書院はいわゆるオーソドックスな地図であり、その分資料等はコンパクト化されていると感じました。

3番の表記及び表現になりますが、細かなところではあるのですが、都道府県や国名が、東京書籍は赤字に白の縁取りです。帝国書院は赤字にほとんどが黒の縁取りで、この点、国名や都道府県名がぎゅっと詰まったような地図では、白の縁取りのほうが浮かび上がって見えますので、見やすいと感じました。あと、全体の写真の数はあまり差がありませんでしたが、東京書籍のほうが大きな写真が多かったです。イラストに関しては、圧倒的に帝国書院のほうが数は多く、地図の中に散りばめるような形でたくさんイラストが配置されております。

2枚目に行きます。4番の使用上の便宜ですが、これも細かいところにはなるのですが、目次の色分けが東京書籍は世界で7色、日本で8色ということで、各州、各日本の地方ごとに色分けがしてあり非常に調べやすい。帝国書院は世界で1色、日本で1色ということで2色扱いです。

あと、地域性への配慮ということですが、八王子に関する特別な記載はどちらもございませんが、東京というくくりで見ますと、帝国書院に東京の中心部を拡大した地図が2枚、あと江戸時代の東京の江戸の地図があるというところで、若干、帝国書院のほうが東京に関する地図の枚数が多いと思います。

重点調査項目になりますが、東京書籍は地図の中にあまり他の要素を加えないつくりをされています。それに対し、帝国書院は、1枚の地図の中にさまざまな要素を入れております。お手元の地図、東京書籍の54ページ、帝国書院の72ページを御覧ください。大西洋を扱ったページになりますが、東京書籍は地図を載せておりますが、帝国書

院はそのページにさまざまな色の線で、リンドバーグの大西洋横断、タイタニック号沈没、コロンブスの航路、黒人奴隷としての移動、マゼランの部下の航路、ナポレオンが流刑後に死亡した島等、さまざまな形で別の資料も入れられており、このあたりは歴史との関連で使い勝手がいいのではないかと感じました。

最後になりますが、統計地図、グラフ、表の内訳ですけれども、全体的な数を見ますと、東京書籍が地図帳全体で約600、帝国書院が660前後というところで、帝国書院は先ほども言いましたとおり、つくりとして資料のページは少ないのですが、ぎゅっと凝縮した形で資料を入れている。東京書籍はゆったりとつくられていて、資料集的側面もあるという、そういうところで個性が分かれていると思いました。

以上です。

○坂倉教育長 資料作成委員会からの説明は終わりました。地図について御質疑はございますでしょうか。

重点項目で統計的資料などを挙げてもらったことはすごくいいことだと思うのですが、一方で索引に対するコメント等がなかったのですが、私は初めて子どもたちが土地を覚えていくという段階で、地図では索引というのがかなり大事だと思うのですね。たまたまある学校に行ったとき、生徒が場所を聞いたのに対して、「地図のこの辺だ」というような教え方をしている先生がいて、少し残念だったのですが、やはり「索引で調べてごらん」という形が大事だと思うのです。その辺のところの議論というのは特にございましたか。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長 先ほどの資料のところとも共通するのですが、やはり東京書籍のほうがゆったり場所をとっている。帝国書院はぎゅっと凝縮して詰め込んでいるというような形にはなっております。

○坂倉教育長 内容量も少し違いますよね。

ほかに御質疑はございますでしょうか。

○興水委員 2社ですので大変比較しやすいと思いつつ見させていただきました。今、教育長からありましたが、索引の充実という点で、これなら引けるなというような会社が一方であったかなと私も思いました。

もう一つ、国境の示し方というのも特徴的かなと思っているのですが、東京書籍のものは、どちらかというと衛星写真的な、いわゆる国境があまりないというような示し方というのもあって、もう一方の帝国書院の場合は、今現在の事実上の国境が、しっかり、

はっきり、くっきりと示されているという違いが顕著だと思いました。

また、帝国書院の場合、森があったり、家があったりするような絵地図的な要素もありますが、これらについて、八王子の子どもの実態として、例えば委員会ではどのような論議があったのかということをお聞きしたいと思います。

○川口教科書別調査部会「社会（地理、地図）」部長 先ほどのイラストにもかかわってくるところなのですが、恐らく東京書籍はあまりごちゃごちゃ載せずに、見やすくすっきりとつくられていて、帝国書院は先ほどお話があったように、地図の中にかなりイラスト等を入れ込み、興味・関心を引こうというようなところが編集方針として見えます。したがって、これはどちらがいいというよりは、生徒や教員の使い勝手という部分にかかわってくると思いますので、一概にどちらというふうには言えないというところがありました。

○坂倉教育長 ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○興水委員 もう一点。地図ですから、資料はすごく大事だと思うのですが、この調査資料の中で、東京書籍のほうの出典が、地形等及び気候等については平成26年、人口等については2012年となっていて、帝国書院のほうはもう少し新しい出典という形で出されていますが、何かそれで支障があるようなことはありますか。

○川口教科書別調査部会（地理、地図）部長 その1年で大きな変化があったものに関しては、新しいもののほうがいいと思います。ただ、大きな傾向を見るという意味では、あまり差し障りはないのかなとも思いますが、やはり新しいもののほうがよりいいと思います。

○坂倉教育長 ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○星山委員 正直、すごく迷うところだと思うのです。もちろん中学校の教科書なのですが、いわゆる地図帳として一生使うこともあり得るかなと思って、うちなどはずっと使っていたりするわけです。この2つは、見やすさというか、特徴がはっきり分かれています。

私が一番気になるのは、たくさんの情報が盛り込まれているので、ずっと使うという価値においては帝国書院かなと思うのですが、実際教えていて、見やすさであるとか、例えばこの都市を探してみようというときに見つからないお子さんがいらっしやるのではないとか、その辺のところが気になりまして、情報が整理されているほうが実際には探しやすいとか、中学生の段階で使いやすいという視点もあるのかなと。今、帝国書院のものを使っていらっしやるということですが、帝国書院の特徴としては、複

数の情報が1枚のところにな重なっていますよね。その辺のところ、現場で教えていらっしゃる先生方で、何かお感じになっていらっしゃることはありませんか、教えていただきたいです。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長 星山委員の御指摘どおりで、帝国書院のほうは資料がぎっしり詰まっています、上手に使いこなせば非常に使い勝手はいいと思います。東京書籍は、資料と地図を分けているというところで、すっきりと使うという意味では使いやすい地図になっていると思います。これについては、我々もどちらかというのはなかなか判断がつかないところで、正直、今でも非常に迷っているところがございます。

○坂倉教育長 ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○和田委員 先ほど御紹介いただいた、航路のいろいろな説明が入っているものと入っていないものというのを比較してよくわかったのですが、この内容というのは、地図を見てそれを説明するようなものではないですよね。実際には教科書の中に書かれているものを地図で確認しようとか、そういう扱いになりますよね。ということは、これは教科書との関連とか、ほかのさまざまな会社が扱ったときの汎用性といったものを考えたときに、たくさん書き込んであればいいのではなくて、教科書との関連を持っていないと、書き込まれたことがあまり役に立たないですよね。興味、関心で地図だけずっと見ていなさいという授業ではないと思うので。そういう扱いから考えて、さまざまな地理の教科書に対応した地図という見方をすると、どちらのほうが活用しやすいのかという点はいかがですか。

○川口教科別調査部会「社会（地理、地図）」部長 若干、私見も入りますが、私は自分が教えるときには、社会科の授業は歴史でも地図を持ってきなさいという話をしていました。例えば、コロンブスの航海というようときには、では地図を見てごらんというような使い方もしました。地理だけであれば、載ってなくてもそれは十分使える地図だと思いますが、もう少し広げて考えた場合は、載っていたらよかったなと思える部分も出てくると思います。

○坂倉教育長 ほかに御質疑ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 御質疑がなければ御意見をお聞きします。委員のほうで、何か御意見等ありましたらお願いしたいと思います。

○興水委員 アクティブラーニングとか、さまざまに問題解決ということになると、やはり子どもたちが取り組みやすいような課題が示されているとか、選んで取り組めるような選択肢がたくさんあるというのはいいことだと思います。だから、難しい課題ではなくて、ステップを踏んだ細やかな課題で選べるような形が出ていればいいなと思うのと、先ほどお話があったように、我が家にも地図帳はまだありますから、そういう意味では長年使うということも考えたほうがいいのかなど思いながら聞いていました。

以上です。

○坂倉教育長 ほかに御意見ございませんでしょうか。

○星山委員 たまたま私が読みやすさということについての専門なものですから、見方のところで、今さまざまな子どもたちが問題を抱えていまして、これを見たいと思ってもその文字が見えないという生徒も増えているということもあります。もちろん内容がたくさん盛り込まれているということも重要なのですが、ちょっとした工夫ですね。色使いとか囲みなどで、いわゆるユニバーサルデザイン化と言われていますが、そのあたりのところも、これからとても大切になってくるのではないかと思います。

○坂倉教育長 ほかに御意見ございませんでしょうか。これはまさにどちらを選ぶかという感じになってきますが、オーソドックスな形がいいのか、ほかの授業でも使っていくか、そこも含めてぜひ各委員の御判断でお願いしたいと思います。

本当は、できれば少しここで休憩をとりたいなと思っていましたが、あまり休憩の時間をとる余裕がなさそうですので、休憩はなしでいかせていただきます。



○坂倉教育長 それでは、次に、歴史について資料作成委員会から御報告願います。それから、議事録のこともありますので、手を挙げて名前を言ってからお願いいたします。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 社会の歴史的な分野部長をさせていただいております、ひよどり山中学校校長石塚でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○上田教科別調査部会「社会（歴史）」副部長 同じく副部長の松木中学校副校長の上田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○坂倉教育長 それでは、石塚部長、上田副部長、よろしくお願いたします。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 それでは、社会歴史的な分野について御報告させていただきます。各出版社について、報告書の観点ごとに横に報告させていただきます。

まず、現在、八王子市で使用している教科書は東京書籍でございます。観点1の内容についてですが、東京書籍は、巻頭で歴史を学ぶ意義、歴史の流れ、調べ学習などを示し、各章の初めの「やってみよう」で、小学校の学習をイラストや資料で振り返りながら、中学校への学習の連続性に配慮していると思われまます。

教育出版では、巻頭で同じく歴史を学ぶ意義、歴史の移り変わり、時代区分、人物カードづくりや資料の見方などを紹介し、小学校の学習を振り返り、中学校への学習の連続性を工夫していると思われまます。また、資料や写真を示し、各単元の表題を工夫し、興味・関心への配慮があるかと思われまます。

清水書院は、巻頭で、歴史についてキャッチコピーづくりにより、時代の特色と流れを考えさせようとする工夫が見られます。単元末、章末の「まとめてみよう」の設問がやや難しい点も含まれるとの意見がありました。「もっと知りたい」のコラムで興味・関心への工夫、配慮があるかと思われまます。

帝国書院は、巻頭で歴史を学ぶ意義、捉え方、調べ方や小学校からの振り返りが示され、特に各部の初めに「タイムトラベル」というイラストで紹介し、興味・関心を高めさせ、歴史を本文の記述と関連させて、事前・事後に学習、確認するという工夫、配慮が見られます。

日本文教出版では、巻頭で歴史を学ぶ意義、歴史の捉え方、流れを小学校の学習を振り返りながら示し、各編の最初に見開き2ページで資料、イラスト、写真と世界地図を活用した世界の動きを紹介するなど、興味・関心への工夫、配慮が見られます。また、各編で図版特集として、イラスト、図版、写真など、豊富な資料で示していると思われまます。

自由社では、巻頭に歴史を学ぶ意義や、序章で歴史の調べ方、小学校で学んだ人物調べ、地域調べなどを通した歴史の捉え方を紹介し、「もっと知りたい」のページで、読み物コラムとして、興味・関心を高める工夫が見られます。序章での調べ学習の例は、内容がやや細かく、難しいとの意見もありました。

育鵬社では、巻頭で歴史を学ぶ意義などを示し、序章の「歴史人物Q&A」カードづくりで、小学校で学んだ人物を通して歴史学習導入の工夫が見られます。各章の初めに、歴史の物差し、スケール、歴史絵巻、絵画資料を紹介し、興味・関心を引き出す配慮が見られますが、本文欄外の脚注に比較的細かい内容もあるとの意見もありました。

学び舎では、巻頭の「歴史への案内」で、小学校で学んだ人物カードや年表づくりな

どを通して、学習の振り返りを紹介しています。各単元の表題に特徴が見られ、生徒の興味・関心への工夫が感じられ、「歴史を体験する」では、さまざまな活動を紹介し、興味・関心を高める工夫が見られます。本文中の記述にやや細かな事項が含まれるとの意見がありました。

次に、2の構成及び分量についてです。東京書籍では、各章末に各時代の歴史学習を確認するページや「歴史スキルアップ」というコーナーがあり、基本事項を押さえつつ、「深めよう」「歴史探検隊」「歴史にアクセス」などのコラムで、発展的な学習にも配慮が見られます。

教育出版では、見開き2ページ本文の各右下に「ふりかえる」という課題設定があり、2ステップでまとめ、確認していく工夫があり、また資料や人物、地域などから歴史を探ろうという設定で、資料とともに発展的な学習に工夫が見られます。

清水書院では、各単元右下の「まとめてみよう」で学習のポイントを確認し、「もっと知りたい」というページや本文のページの資料、コラムなどで発展的な学習への配慮が見られます。

帝国書院では、各単元見開き2ページ下の「確認しよう」「説明しよう」の2ステップで学習内容のポイントをわかりやすく確認し、「歴史を探ろう」では、資料、写真などが豊富で発展的な学習への配慮、工夫が見られます。

日本文教出版では、各単元右下の「学習の確認と活用」で学習のポイントを確認する課題設定があり、各章の「歴史を掘り下げる」や「でかけよう！地域調べ」、「先人に学ぶ」では、資料、写真などが豊富で、発展的な学習への工夫が見られます。

自由社でも、各単元右下の「まとめにチャレンジ」で、説明や、まとめながら確認するといった設定があり、「もっと知りたい」「外の目から見た日本」「人物クローズアップ」で発展的な学習への工夫が見られます。

育鵬社でも各単元の最後の下に、説明したり確認するという課題設定があり、各章で「このころ世界は」や「歴史にズームイン」などで、発展的な学習への工夫が見られます。

学び舎は、本文の記述で基本的な事項を押さえ、本文中、見開き2ページの最後にコラム、教材の紹介があり、発展的な学習へ導く工夫があると思われます。

次に、観点3の表記及び表現についてです。

東京書籍では、写真や地図、資料などが全体的に大きく、バランスよく配置され、明

るく、見やすく、また本文と各資料との関連、対応を図番号で示すなどの工夫があり、わかりやすいとの意見がございました。

教育出版も、本文の記述事項と各資料との関連対応を図番号で表示するなどの工夫があり、わかりやすいとの意見がございました。

清水書院は、サイズがB判で小さいためか、写真、地図、資料が小さく、精選され少ない、または印刷がやや薄いとの意見がございました。基本的な重要語句もゴシック体で表記されているが、その扱いについて判断が難しい事項、また一方、欄外などの資料にあるが、本文中に記述がない事項もあるとの意見がございました。

帝国書院は、本文の記述、事項と各資料との関連対応を図番号で表示するなどの工夫があり、わかりやすく、写真、地図など資料も豊富との意見がございました。

日本文教出版も、本文の記述事項と各資料との関連対応を図番号で表示するなどの工夫があり、わかりやすい工夫が見られます。

自由社は、ゴシック体での表記で、その扱いについて難しい事項が含まれ、一方、本文中に記述がない事項もあるとの意見や、ヨーロッパの近代国家の成立について記述が少ないとの意見がございました。

育鵬社は、全体的には読みやすい文章で記述されていますが、ゴシック体での表記で、その扱いについて難しい事項があり、資料の写真の中に一部不鮮明なものも見られるとの意見がありました。また、ヨーロッパの近代国家の成立について記述が少ないとの意見がございました。

学び舎は、全体的に読みやすい文章で記述されていますが、一部かなり詳しい地名、人名が示され、やや難しいとの意見がありました。重要語句などのゴシック体での表記は特にありませんでした。ページに占める資料、写真などは、全体的に大きく見やすいという意見がございました。

続いて、観点4、使用上の便宜についてですが、その中の地域性の配慮については、今回特に、八王子及び多摩地域に関係する歴史資料の記載を比較調査いたしました。

東京書籍は、章末の「私たちの歴史探検隊」で調べ学習の紹介や、「深めよう」「この時代の特色をとらえよう」などで、課題発見、解決学習への配慮、工夫がありました。あきる野市五日市憲法の条文の一部が欄外に紹介されています。

教育出版は、特設ページの資料や人物、地域、「世界から歴史を探ろう」や單元ごとの「ふりかえる」で歴史を掘り下げ、調べ、課題解決学習に活用できると思われま

民間の憲法草案の例として、あきる野市五日市憲法の条文の一部が欄外に紹介されています。

清水書院では、各章の「歴史のとびら」で人物の調べ方、資料の読み取り方、地域の調べ方、單元ごとの「まとめてみよう」では、課題解決学習に参考・活用できると思われます。自由民権運動の広がりとして、発見された土像の写真とともに、あきる野市五日市憲法草案の一部が紹介されています。

帝国書院では、「タイムトラベル」でイラストを見ながら疑問点を発見し、課題解決に活用でき、また「学習をふりかえろう」でも、説明や話し合い活動を通して課題発見、解決への道筋に活用できると思われます。多摩地域の自由民権運動の例として、あきる野市五日市憲法草案の一部が紹介され、また八王子車人形の写真、また現在に残る絹の道の写真が地域史のコラムで紹介されています。

日本文教出版ですが、「歴史のとらえかた」の最初に、小学校で学んだ例を参考に、人物、出来事、文化遺産を調べるポイントが紹介され、各章に「でかけよう！地域調べ」や「先人に学ぶ」、図版特集等、豊富な資料による紹介が課題発見、追求の学習に工夫、配慮があると思います。民衆がつくった憲法試案として、あきる野市五日市憲法草案の一部が紹介されています。また、町田市の養英館を紹介し、青少年が自主的に政治学習や討論に励んだという説明がありました。

自由社では、各章のまとめとして、コラムで兄弟の会話を通した時代比較、人物比較のまとめや一番印象に残った学習に関する一言作文、他者との話し合いによる意見交換会の方法を紹介し、課題発見、解決に向けた学習への工夫が見られます。欄外のコラムで、「江戸の会読と民権派の憲法草案」として、あきる野市五日市憲法草案の一部が紹介されています。

育鵬社は、ほぼ各章に、課題学習として文化財人物調べや新聞づくりなどの課題を資料とともに示しています。また、各章の初めにある「鳥の目で見ると古代」などのイラストの歴史絵巻、「虫の目で見ると中世」などの各資料や「歴史にズームイン」のページは、写真資料などをもとに課題発見、追求の学習に配慮、工夫が見られると思います。玉川上水について、欄外のコラムで江戸時代の新田開発に関して紹介しています。また、民間でつくられた憲法草案として、コラムで五日市憲法の一部を紹介しています。

学び舎では、巻頭のところで「歴史への案内」として、小学校の学習をもとに歴史を楽しく学ぶための調べ学習の方法や例を紹介しています。また、各部の初めに学習課題

を設定し、興味・関心を深め、課題発見、解決学習への工夫、配慮があると思われま

す。歴史を体験するコラムで、「地域の歴史を歩く」として小平市を扱い、鈴木分水や玉川上水を新田開発との関係に含め、資料、写真とともに紹介しています。また、「地域の博物館で調べる」というコラムで、羽村市郷土博物館を例に紹介し、地域での調べ学習の参考として示しています。また、明治時代、府中市につくられた学校や府中市で開かれた自由民権運動の演説会の様子をコラムで紹介しています。さらに、民衆がつくった憲法として、八王子や絹の道を含む地図や写真とともに、五日市憲法の一部を取り上げています。

次に、5の重点項目についてですが、学習指導要領、歴史的分野の目標や改訂を踏まえ、我が国の歴史の大きな流れを理解し、世界の歴史を背景に、日本の伝統や文化の特色を、広い視野に立ち、さまざまな資料を活用して、歴史的事象を多面的、多角的に考察し、公正に判断して表現できるようにしていく。また、歴史の捉え方では、その時代を体感し、表現する活動を通して各時代の特色を捉えさせるなどの趣旨がございます。

歴史的視点を育む姿勢、特に多面的、多角的な視点、また歴史を時代や背景、大きな流れで体感する授業への配慮・視点ということで、今回調査を行いました。

まず、東京書籍では、「歴史にアクセス」というコラムなどでさまざまな資料を紹介し、章末にある「この時代の特色をとらえよう」「この時代の歴史の学習を確認しよう」では、比較表や歴史新聞、年表でのまとめ方、ディスカッションやプレゼンテーションなど、さまざまな学習活動を提示して多面的、多角的な思考、歴史の流れを体感する視点でも工夫、配慮が見られます。

教育出版では、特設ページ「歴史を探ろう」で5つのテーマ、郷土、史料、人物、地域、世界からそれぞれ歴史を掘り下げる学習を設定したり、学習コラム「歴史の窓」で、さまざまな人々、立場、資料を紹介し、また各章末の「学習のまとめと表現」で、時代の特色を大きく振り返る学習を示すなど、多面的、多角的な思考、歴史の流れを体感する視点での工夫、配慮が見られます。

清水書院では、3か所で「地図で見る世界史」として、同時期の日本と世界をつなぐ多面的な工夫が見られ、「歴史のとびら」や「もっと知りたい歴史」のコーナーでもさまざまな視点、立場、資料を通じた他面的、多角的な配慮、工夫が見られます。巻頭の「時代ごとの特色と時代の流れを考えよう」、「キャッチコピーづくりを始めよう」や、各章末の「まとめてみよう」で年表や資料を活用して、大きな流れ、特色を捉える活動

を設定しています。

帝国書院では、各部末の「学習をふりかえろう」で、学習知識の確認だけでなく、話し合いや新聞記事の作成などを通して、多角的なまとめに工夫があり、未来の社会を創造するために必要な知識を紹介したコラムで、人権、自然環境、平和、交流の4つのテーマで紹介し、多面的、多角的な思考を培う工夫、配慮が感じられます。また、「学習をふりかえろう」では、習得した知識を活用してその時代を体感し、特色を捉える活動を示し、この構成で原始、古代から現代まで一貫していると思われます。

日本文教出版では、各編初めの「地図で見る世界の動き」や「とらえよう時代の転換」で、日本と世界を関連させ、世界史的な視点によって、多角的、多面的な視点を培う工夫が見られます。各編末の時代をまとめる活動「とらえよう」では、時代の特色、流れを体感する工夫が各章で一貫して見られます。

自由社では、「外目から見た日本」など、さまざまなコラムで紹介し、多角的、多面的な工夫が見られますが、やや弱く、日本の古代史や太平洋戦争など、国の対立での記述、表現に特徴が見られるとの意見がございました。各章末のまとめで、人物比較とともに時代を比較させ、「ひとこと作文」や「意見交換会」を紹介し、また、全体の学習の最後に、日本の歴史の特色は何かという設定で6つの課題を示し、時代の特色や流れを振り返り、まとめて体感する工夫が見られます。

育鵬社は、「このころ世界は」では、世界とのつながりを意識させ、「歴史ズームイン」「なでしこ日本史」などでさまざまな資料を提供し、多面的、多角的視点を培う工夫が見られます。また、太平洋戦争など、対立での記述、表現にやや特徴が見られます。章末の「学習のまとめ」や全体の終わりに「歴史学習のまとめ」を紹介し、時代の特色、大きな流れを体感する工夫、配慮が見られます。

学び舎は、各章の初めに、世界地図や図版、資料などを使い、世界の様子、動きを意識させながら、その時代の学習課題を示して、多面的、多角的視点で考える工夫、配慮が見られます。各章末の振り返りや各文末の学習のまとめ、さらに巻末の写真や資料を含む20ページの年表は、時代の特色や時代の流れ、転換を確認しながら体感できるよう、工夫されていると思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

○坂倉教育長 お疲れさまでした。ただいま資料作成委員会の報告が終わりました。歴史について、御質疑はございませんでしょうか。

○星山委員 2点ほどお伺いしたいのですが、まず1点目は、今、東京書籍の教科書を使っているという事なのなのですが、使われていて何か不都合な点など感じる事があったというような意見が出たのか、八王子の子どもたちの実態と照らし合わせてという観点で伺いたいです。

2点目は、質問の意図は似ているのですが、小学校から連続性を持ってという視点でお話されていましたが、そのところで特にこの教科書はというような意見があったかどうか、この2点について伺ってみたいです。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 今回の調査部会の中では、現在使っている東京書籍を使ってみて感じた長所や短所といったことは出ていません。ですが、使い慣れているというような言葉などは、一部出たように思います。

それから、2点目の八王子の子どもたちにとってということもそうなのですが、特に小学校との連続性という意味では、先ほど述べさせていただいた内容以外には、特にこの教科書だけがとか、またはこの教科書が特にその点にすぐれているというような直接的な意見はございませんでした。

○坂倉教育長 他に御質問はございませんでしょうか。

○和田委員 先ほどの説明の中に、資料はあるのだけれども、本文中に記載がないというような、そういう資料提示の仕方があるというお話がありましたよね。本文中に記載があるものと、それから本文中にはないのだけれどもコラムとして扱っているというような單元などがあると思うのですが、本文の扱いと資料との関係、さらにコラムというのは、授業的にはどのように展開されていくのですか。要するに、本文にないと、あまり資料を考えたり、あるいはコラムを読むというようなことがないのかどうか、その辺のところはどうでしょうか。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 例えば、子どもたちはまず本文を読んだり、授業中に教員が読ませたり、読み合ったりという作業が実際ありますので、本文にあるというのは確かに一つのポイントにはなると思います。ただ、コラムというのも基本的にはどの教員も有効に活用すると考えられます。

○坂倉教育長 他に御質問はございませんでしょうか。

○興水委員 歴史ですので、年表というのはすごく大事だと思います。会社によって、例えば今やっているこの学びはどこの年表に関係あるのだということが各ページに示されている出版社もあれば、各ページに示されていない出版社もあります。また、示されてい

ても感覚が非常に違う。つまり、同じ1世紀であっても、長く書いてあったりとか、一方では工夫として、今示されているところを取り出して大きく見せる工夫がしてあるところもあります。子どもの実態から言うと、時代感覚、時間感覚というのは本当に難しいと思うのですが、こういうことは、実際に授業をするときに扱っていかげですか。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 調査部会の中でも、今の御指摘のところは一部話題になりました。先ほども、スケールとか物差しとかという言葉の一部述べさせていただいたと思うのですが、それはやはり今の子どもたちにとっては大きな目安になるのではないかという意見も何人か出ました。ですから、今どこの時代をやっているのだろう、先生がこの1時間、2時間で授業したことはどのことかというのは、直接的な物差し、スケールなどがあれば、子どもたちにとっては非常にわかりやすいと思います。

○坂倉教育長 他に御質疑ございませんでしょうか。

先ほど、清水書院のところ、文字が薄かったり、読みにくかったりという説明があったのだけでも、多分B5判のせいもあるのかなと思ったのですが、他社は大体AB判が多い中で、B判とそれからA判があるのですが、その辺のところは何か議論は出ましたか。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 そこだけにこだわった意見はあまりなかったと思いますが、やはり他社とは少しサイズが違うものですから、清水書院の教科書は小さいなという印象があります。報告書にも書かせていただきましたが、小さいがゆえに写真をどのくらいのサイズにするとか、文章表現をどのくらい精選するかという、逆に工夫している面で我々は見えていきましたけれども、やはり大きなサイズの教科書も今回紹介されていますので、生徒の使い勝手というような部分については、少し意見は出ました。

○坂倉教育長 ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○興水委員 小学校の社会科歴史の分野では、人物を中心に、まさに生きた歴史をということやってきていると思います。中学校では体感するということが非常に大きなポイントだとは思いますが、人物の紹介について、ある会社は非常に人物紹介が多くて、相当な数の人物が出ています。一方、あまり人物が出ていないところもあって、現代史における人物の紹介というところに何かしら偏りがあるのではないかと見受けましたが、その辺は話題にはなりませんでしたが。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長 先ほど少し説明させていただいたのですが、

御指摘のとおり、人物をどの程度教科書の中で紹介するかというのは話題になりました。その扱いについてはいろいろな考え方がありまして、先ほどのゴシック文字との関係もあるのですが、子どもたちはそこに出ていれば覚えなければいけないとか、極端なことを言うと、テストに出る、出ないという現実的な話題も正直あると思います。確かに、教員がたくさんいろいろなことをきめ細かく説明したり、具体的に説明するときには、今まであまり教科書に載らなかった人物のエピソードもある意味大事かもしれませんが、ただ、今言ったように、逆に子どもたちの負担感というか、こんなに勉強しなければならないとか、こんなに覚えなければならないというような発想が出るかもしれないので、それは指導する側にも当然工夫は必要ですが、その両面があるのではないかと思うのです。ですから、今まで我々が基本的に授業で取り扱ってきたような人物名の視点から比較対照し、今回の報告書及び今の説明でも少し述べさせていただいているところです。

○坂倉教育長　ほかに御質疑ございませんでしょうか。

領土の問題を地理で扱うか歴史で扱うかというとき、両方で扱うのでしょうかけれども、見させてもらった中で、いくつかの会社で少し取り扱う重さが違うという感じがありました。自分の会社が例えば地理ではたくさん領土問題を取り上げていて、歴史のほうでは少なめであるというときに、同じ会社をとればいいのだけれども、そうではないとなったら、なかなか取り上げにくかったりするわけではないですか。現実には、領土の問題などというのは、社会科の中の歴史や地理の中でどのように扱っているのか、また、その辺の議論があるのかどうかというのをお聞きしたいです。

もう一つ、日本国内の少数民族の扱いというか、アイヌ系や沖縄系の方たちの記述も、少し重いところと軽いところがあったかなと個人的には思ったのですが、その辺何か議論があったかどうか、あれば教えてください。

○石塚教科別調査部会「社会（歴史）」部長　まず、1点目の領土のことですが、今回の調査部会の委員会では、領土問題について各社の比較対照は行いませんでした。ただ、全体を見ていて、歴史の中で日本領土の確定の記述はあると思います。ただ、歴史の分野の中で、授業で取り上げないわけではないのですが、むしろ地理の分野というような形で我々は捉えています。記述としては、本文または欄外に領土の確定といった内容は各社あると思います。

それから、少数民族、例えばアイヌの人たちのことですが、これも一部の委員の中から、アイヌ民族の方々の記述について、この教科書はというような意見が一部あったよ

うにと思いますが、特に委員会全体としてそれをまとめるという形にはなりませんでした。

○坂倉教育長 他に御質疑ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 それでは、他に御質疑がなければ、各委員の御意見をいただきたいと思えます。御意見はございますでしょうか。

○和田委員 やはり歴史というのは日本だけを取り上げて見るというよりも、世界の中の歴史の位置づけを見ながら日本を考えていくという、そういう広い視野が必要だと思えます。ある一部分だけを強調して捉えたり、あるいは紙面を割いて行うというよりも、世界全体の中で日本の歴史を考えていくという視点に立ったときに、内容的な偏りといったものについて配慮されていて、バランスのあるものにしていく必要があるだろうと思っています。

2つ目は、先ほども地図のところで申し上げたのですが、資料がこれだけ多くなってきたときに、先生がどれだけ情報を整理して、まとめをされるのか。あるいは、重要性を強調したり、この部分の学びをしっかりと伝えていくのかと考えたときに、やはり資料だけの提示だけでわかってくださいというような授業ではなくて、言語化されたものをきちんと捉えられるような、そういうバランスのいい教科書になってほしいと思っています。

私たちは、図や映像というのは印象としては受けられますが、それを保存したり、あるいはそれを再現するというのには、やはり文字化が必要になってくるわけです。そのときに、ただ漠然とした印象を持ってこの時代はこうだったのだなというよりも、そこにおける重要な視点を文字として、文章としてきちんと整理されたものが教科書として大切なのではないかとと思っています。

○坂倉教育長 他に御意見はございますでしょうか。

○金山委員 歴史はいろいろな問題を含んでいて、特に今お話にもあったように、中学生にとっては暗記科目みたいなことはありますけれども、やはり今求められている、社会を支える人たちをつくるという意味で、過去をきちんと学んで、それが将来的に持続可能で平和な社会につながるのだという、歴史の流れのようなものを私は大事にしてみたいなと思って読んでおりました。

○坂倉教育長 ほかに御意見はございますでしょうか。

○星山委員 私も日々大学生を教えて、教員に育てているわけですが、日本という国は世界

の中でどういう位置にあって、どういうバランスで生きていくかということ、地理もそうですけれども、広い視野の中の日本ということで捉えるというのは、非常に今の時代に大事なかなと思います。

現実には、テストでいい点をとることであるとか、ここまでで終わらせなければいけないというような話になるのですが、やはり教える先生方も教科書を教えるというか、教科書で教えていく。子どもたちに未来をつなぐために、何を重要なこととして伝えるかということのバランス感覚というのがすごく問われるのではないかなと思いますので、教科書を選ぶのも、その視野をすごく大切にしたいなと思いました。

○坂倉教育長 輿水委員は特にいいですか。

先ほど和田委員が言われた世界史の中の日本というのは私も大事だと思っています。そういう中で、歴史の教科書ではなくて、日本史の教科書的な教科書が2つくらいあったと思うのですが、やはり世界の中での日本としていくとすると、日本史に関するものだけ世界史を持ってくるのではなくて、世界史の中で見ていく。先ほども説明の中で、近世のヨーロッパが弱いというような説明をしていましたが、近世ヨーロッパ以上に世界史全体に弱いなというような感じがあったので、その辺はもう少しバランスよく見たいなと思いました。

それから、先ほど質問した領土について、現実的には地理で教えるのかもしれませんが、長い歴史があるとすれば、歴史の中で教えていくということを考えると、コラムではなくて一定の記載がないと、地理と歴史で違う教科書が選ばれたときに全くやらないということもあったりするなというようなことを思いながら、私は臨んでいました。

ほかによろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 それでは、次に公民について、資料作成委員会から御報告願います。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 社会化公民的分野の部長をさせていただいております、別所中学校の福山と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○嶋津福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 同じく副部長をしております、甲ノ原中学校嶋津と申します。よろしく願いいたします。

○坂倉教育長 では、福山部長、御説明お願いします。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 それでは、これより社会化公民的分野の調査

報告をさせていただきます。

現在、本市では帝国書院の教科書を使用しておりますが、今回、社会化公民的分野選定資料作成調査部会では、7社の教科書について調査をいたしました。説明の順序としまして、調査の観点項目の順に御報告させていただきます。

最初に、観点1、内容、(1)発達段階についてです。7社とも発達段階に即しております。

(2)興味・関心を引き出す配慮についてです。東京書籍では、イラスト、写真、図などの学習内容に即した資料、日常生活と関連づけた資料が多く掲載されており、興味・関心を高める工夫をしています。章の扉にて小学校の既習事項を写真等により視覚的に振り返りさせたり、地理、歴史的分野の学習内容を振り返りさせたりして、公民の学習にスムーズに入れるような配慮をしています。

また、1単位時間の導入部では、学習課題を提示することで、1時間の学習の見通しを持たせるとともに、キャラクターの吹き出しを使って資料の読み取りの視点を示しており、関心・意欲を引き出すことにつなげています。色使いも全体的に豊富です。

教育出版は、イラスト、写真、図等の資料を多数掲載しています。小学校6年生の教科書に登場したキャラクターを中学生に成長させた姿で登場させるなど、小中連携に配慮しています。導入部の「見てみよう」で導入教材を解説しており、興味・関心を引き出す工夫をしています。学習課題は、1時間の学習で何について追求していくのか見通しを持って学習に取り組めるような配慮がされています。色使いも豊富で視覚的に訴える工夫がされています。資料の読み取りの視点も示されており、興味・関心を引き出す配慮がされています。

清水書院は、色使いはやや抑え目なのですが、親しみやすいイラストや写真、図を多く掲載し、興味・関心を引き出すことに配慮しています。写真や新聞の切り抜きなどからも、章を追うごとに発達段階に応じて理解しやすい工夫がされています。また、キャラクターに補助的な解説や学習課題を提示させています。見開きページの学習目標を示し、1時間の授業で学びたい内容の見通しと課題意識を持って学習に取り組む配慮がされています。資料を読み取る視点については特に提示されていませんでした。

帝国書院は、学習内容に即したイラスト、写真、図が多く掲載されており、色使いも豊富で、視覚的に訴える工夫がされています。各章の導入として「クローズアップ」を設け、学習内容に関係する人物や具体事例を紹介し、現実の社会と学習内容の橋渡しが

できるよう、また興味・関心を引き出すよう配慮されています。学習課題を示し、この単元で何を身につけるべきかを把握した上で学習に入れるように配慮されています。クエスチョンマークを使い、資料の読み取りの視点を示し、興味・関心を引き出す工夫がされています。

日本文教出版は、イラスト、写真、図が多く掲載され、色使いも豊富であり、視覚に訴える工夫がされています。挿し絵から、学ぶべき内容を段階ごとに深められるように工夫されています。導入となる写真から学習内容について興味・関心が高められるよう工夫されています。また、キャラクターの吹き出しを使って資料を読み取る視点も示しています。学習で学ぶ見通しをイラスト、新聞記事を活用したり、学習課題を提示したりして興味・関心を引き出す工夫をしています。

自由社は、イラスト、写真、図などの学習内容に即した資料や色使いについては、やや抑え目となっています。また、写真や絵から章ごとに学ぶべき内容をつかむことができるようになっています。「ミニ知識」や「もっと知りたい」の項目から、その章の内容に興味・関心が持てるよう工夫されています。ただ、資料等の読み取りの視点については提示がされていません。

育鵬社は、イラスト、写真、図などの学習内容に即した資料が多く掲載されており、色使いも豊富で、視覚的に訴える工夫がされています。章の初めの「入り口」や見開きの冒頭には、複数の資料を掲載し、キャラクターも吹き出しで導入資料を読み取る視点を示しており、関心・意欲を高める工夫がされています。また、学習の狙いがわかる学習課題を設定して、何を学ぶのかを明確に示すことで見通しを持って学習を進めることができる配慮がされています。

(3) 本市の学力の実態への配慮についてです。本市では、各校の学力の実態、種々の調査結果から、思考・判断・表現や資料活用の力を育てることが課題となっております。その視点で見ますと、各社ともこのような力を高める内容となっております。

観点2、構成及び分量、(1) 内容の組織配列・発展的記述についてです。学習指導要領における公民的分野の構成については、現代社会、政治、経済、国際社会の4つの大項目で構成されています。平成28年度から使用される教科書については、各社とも現代社会、憲法及び人権、政治、経済、国際社会の順に配列されています。

また、分量についても各社とも若干の差はありますが、本文240ページ前後で構成されており、委員会としては適量であると考えております。また、発展的記述について

は、各社とも発展的な課題や記述が掲載されております。なお、この発展的記述、発展教材の配慮についてですが、学習指導要領に示された内容より高度な内容を発展的と定義するというふうに理解しておりますが、今回の調査でその判断が大変難しいと感じております。記述内容だけで捉えるのであれば、比較的判断しやすいのですが、言語活動、あるいは多様な学習活動も盛り込まれている新しい教科書ですので、基本的には各社とも発展的な学習につなげられるというような視点で、特設ページやあるいはコラムを設けておりますので、その点を中心に判断基準とさせていただきます。

次に、基本事項の押さえと補充教材について御説明いたします。基本事項の押さえとしては、大項目ごとや1単位時間ごとの学習のまとめについて調査いたしました。各社とも大項目、各章や各編ごとに学習内容と重要語句の整理があり、基本事項を押さえられるようになっております。1単位時間の基本事項の押さえは、東京書籍は「確認」コーナー、教育出版は「ふりかえる」、帝国書院は「確認しよう」、日本文教出版は「学習の確認と活用」、育鵬社は「鉛筆マーク」で確認ができるよう工夫されています。清水書院と自由社は、1単位時間ごとの基本事項を押さえる項目は設けられていませんでした。

補充教材につきましては、憲法、法令集を各社とも設けて思いました。現代史年表は自由社のみ設けておりませんでした。

用語の説明については、東京書籍、教育出版、日本文教出版は用語解説集及び側注欄に用語解説を設けています。清水書院、帝国書院、育鵬社は用語解説集がなく、側注欄に用語の解説が載っています。自由社は、用語の解説が設けられていませんでした。

次に、発展的記述、発展教材への配慮ですが、各社とも特設ページを設けて発展的な学習につなげております。東京書籍は、「公民にチャレンジ」や「公民にアクセス」「深めよう」などの特設ページを設けています。教育出版は、「読んで深く考えよう」「言葉で伝え合おう」の特性ページを設けています。清水書院は、「深める公民」「もっと知りたい公民」の特設ページを設けています。帝国書院は、「トライアル公民」「技能をみがく」の特設ページを設けています。日本文教出版は、「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」「明日に向かって」の特設ページを設けています。自由社は、「もっと知りたい」の特設ページを設けています。育鵬社は、「理解を深めよう」「考えよう」「やってみよう」の特設ページを設けています。

次に、観点3、表記及び表現についてです。清水書院以外の6社につきましては、全

て「です。ます。」調の表記となっています。清水書院につきましては、「である。」調の常体表記となっていますが、各社とも平易で理解しやすい表現となっております。

(1) 読みやすい表現という観点においては、東京書籍は色覚特性を踏まえ、地図やグラフの色に配慮し、読み取りやすいゴシック体のふりがなを採用しています。教育出版、清水書院、帝国書院は、全ての人に読みやすい書体、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。日本文教出版は、i P h o n e や高速道路の標識にも使われている読みやすい書体、平仮名明朝体を使用しています。自由社は、重要語句をゴシック体で記述しています。育鵬社は、ふりがなにはゴシック体を用い、視覚特性を踏まえて判別しやすい色の指標や表示の工夫をしています。各社とも印刷は鮮明であり、文字や資料が見やすくなっております。

教科書の判型は、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社はA B判、清水書院と自由社はB 5判となっております。

次に、観点4、使用上の便宜、(1) 全体の構成が見渡せる配慮についてです。各社とも1単位時間の学習内容が見渡せるように、見開き2ページ構成となっております。清水書院以外は、1ページ目の上部に資料を提示し、2ページ目の上部及び両サイドに本文を補う資料として写真、イラストなどの資料を配置しております。清水書院につきましては、他社のような紙面構成も多く見られるのですが、1ページ上部に導入資料がなく、タイトルの後に本文が続くようなページも見られ、必ずしも統一された紙面構成にはなっておりませんでした。また、清水書院と自由社の見開き2ページの両サイドの補足資料の扱いについては、写真やイラスト、図よりも文章による説明が多く見られます。

次に、(2) 課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮についてですが、各社とも先ほどの発展的記述や発展教材のところで御説明をさせていただいた特設ページを中心に対応しておりました。

1単位時間という視点で見えますと、東京書籍は「確認」「公民にアクセス」、教育出版は「ふりかえる」、清水書院は風船マークの「調査」、帝国書院は「確認しよう」、日本文教出版は「学習の確認と活用」、育鵬社は「鉛筆マーク」で1単位時間ごとに課題の提示や課題発見、解決に向けて学習ができるように配慮されております。自由社につきましては、1単位時間についての課題設定は特に見られませんでした。

(3) 印刷、装丁への配慮についてですが、各社とも大項目、章や編ごとに色分けさ

れております。特に、帝国書院と日本文教出版は、ページの指がかかる部分に学習内容がわかるタグのようなものが印刷されており、利便性に配慮されております。

(4) 地域性への配慮についてですが、特出すべき点は見られませんでした。

最後に、観点5、重点調査項目についてです。公民部会としましては、学習指導要領を踏まえ、今回4項目取り上げて調査することにいたしました。特に、(2) 現代社会における具体的な事実や課題の取り扱いについての①我が国の位置と領土については、平成26年1月中学校学習指導要領解説社会編において、我が国の領土に関する教育や自然災害における関係機関の役割等に関して一層の充実を図ると一部改定されたことを受け、調査項目としております。

初めに、(1) 言語活動の取り扱いという観点を設定して調査いたしました。言語活動に対する取り扱いについては、全社が言語活動に関する特設ページを設定してまいりました。特に、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4社については、言語活動を取り上げている事例が100以上あり、多様な学習活動が展開できるように工夫がされています。

東京書籍は、1単位時間ごとの「確認」、各章末の「言語活動のまとめ」においてディベート、模擬投票、模擬裁判、企画書づくり、模擬国際会議、レポート作成など、多様な言語活動等を取り入れております。

教育出版は、1単位時間ごとの「ふりかえる」、「読み解こう」コーナー、各章末の「学習のまとめと表現」、「言葉で伝え合おう」の特設ページを設け、情報リテラシー、ディベート、模擬裁判、プレゼンテーション、ポスターセッション、レポート作成などの方法についてまとめられていました。

帝国書院は、1単位時間ごとの「説明しよう」で、討論、模擬裁判、レポート作成について具体的な方法が提供されています。また、「技能をみがく」「トライアル公民」「未来に向けて」では、より具体的に言語活動のグループワークの方法が示されています。

日本文教出版は、1単位時間ごとの「学習の確認と活用」「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」「明日に向かって」などの特設ページの中で、ディベート、ブレインストーミング、プレゼンテーション、レポート作成など、多様な方法についてわかりやすく提示しております。

育鵬社は、1単位時間ごとの「鉛筆マーク」、章の初めの「入り口」「やってみよ

う」、各章末の「学習のまとめ」には、ディベート、模擬裁判、プレゼンテーション、レポート作成の方法について提示されておりました。

清水書院につきましては、最終章の「卒業論文を書いてみよう」で、取材やレポート作成について見開き2ページで説明しております。

自由社についても、最終章でディベートとレポート作成について提示していました。

(2) 現代社会における具体的な事実や課題の取り扱いについてです。①我が国の位置と領土については、各社とも設けられておりました。特に、東京書籍、帝国書院、自由社、育鵬社は内容が充実しておりました。

②オリンピック・パラリンピックについては、清水書院以外は取り扱われておりました。

③その他では、各社とも地球環境問題やエネルギー問題、拉致問題が取り上げられておりました。

防災については、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社が防災や自然災害時における関係機関の役割と、東日本大震災の両方を取り扱っております。

清水書院は、防災や自然災害時における関係機関の役割がなく、東日本大震災のみ、自由社は東日本大震災がなく、防災や自然災害時における関係機関の役割のみが取り扱われておりました。

以上で御報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○坂倉教育長 お疲れさまでした。ただいま資料作成委員会の報告が終わりました。公民について、御質疑がありましたらお願いします。

○金山委員 どうもお疲れさまです。一つ伺いたいのは、最後のほうの言語活動のところなのですが、今すぐいろいろな種類の言語活動が出てきていますが、その中から公民として、これはぜひともやりたいとか、これは使いたいという観点で選ぶのか、それとも教科書に出てくるからそれをやりましょうという形になるのか、どういう形でなさるか教えてください。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 学習指導要領にも記載されておりましたが、公民の学習で大切なのは、この学習を通して生徒たちが国民意識を担う基礎的な公民的資質の教養を身につけるということです。生徒自身が自らの問題として捉え、その問題に対して参画をしていく、話し合いであるとかそういう活動を通して参画意識を高めていくということがとても大切であると言われております。

この公民で学んだ力、つまり、参画意識を高めて話し合う技術を身につけ、そしてより協働的に解決をめざして取り組んでいく態度、今、主権者教育と言われておりますけれども、そういうものが身につくことによって、将来の日本の社会を担うのに有為な人材になっていくというところでございます。ですので、今、委員から御質問がありました、ディベートやブレインストーミング、あるいはロールプレイといったものは、全て子ども自らが自分で身につけて、将来主体となって社会参画をしていくための力として非常に大事なものだと思っております。そういう意味で教えるということで考えております。

○坂倉教育長　ほかに御質疑ないでしょうか。

○興水委員　今、主権という言葉が出ましたが、すごく大事だろうというふうに思っています。国旗・国家の扱いのところ、各社が我が国のことを、主権国家、または国家独立国、国際国家云々と書きかえています。独特の言葉を使っているのが少し気になったのですが、そこら辺、何か調査委員会のほうで御議論になったのかどうかというのが一つ。

もう一つは、言語活動のところ、言語活動のやり方については国語科でかなりしっかりと体験もさせ、やり方についての学習もしていると思うのですが、社会科の先生とすれば、これだけ詳しくやり方を説明していなければ、例えば、公民の中でのそういう言語活動にはなかなか具体的に使いにくいというところはあるのかどうか。つまり、国語科との関連ということを考えるときに、これだけ詳しいことは必要ないのではないかとも思うのですが、公民の授業をされる先生とすれば、これだけ詳しい手続きややり方が必要だというお考えかどうか、それをお伺いしたいと思います。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長　まず、1点目の国旗・国歌のところについては、特に委員会の中では議論になるということはありませんでした。

2点目のところなのですが、国語科のほうでも論理的筋道を立てて話し合う、伝え合うということもあると思うのですが、社会科の場合は、やはり多面的、多角的な考察をするというのが一つ大きな目標になっております。さまざまな資料を読み取る力、それをもとにして、論理的にその資料を根拠にして話し合う、討論をするということが社会科の大きな役目ですので、そういう資料をどう使って、合理的な基準で、どういう結論を導いたかというところを踏まえて討論するというようなことで、各教科書がいろいろな工夫をされているかと思っております。

○坂倉教育長　ほかにいかがでしょうか。

学校のルール、地域のルールから始まって模擬裁判まで、実にたくさんやることがあ

って、そういう意味では考えるということでもいいと思うのと同時に、本当に大変だなと思うのですが、そういう中で、今、公民の時間がどのくらいとれているのかというのを聞きたいです。それと、ここで選挙権が18歳に下りてくるのですが、年齢による権利みたいところで、かなり大きく20歳選挙権というように載せている教科書もあるではないですか。ごく普通に入れていたところもあるのですが。その辺のところ、今後どのように変えてくるかというのは、単純に入れ換えるだけなのか、そこを強く書くのか、また少し見てみたいのだけれども、現場としてその辺の変わったところというのはどんなふうに教えているのかなというのを個人的に思いました。急に変わって大変だなと思ったので、その辺のところをどのように教えていくのかというあたり、少し聞きたいと思いました。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長　3年生は1年間に140時間という時間が社会科では割り振られているのですが、ただその140時間の中で40時間が歴史でございいます。歴史の40時間が終わった後に公民的分野の学習を100時間。100時間の中で、現代社会や政治、経済、あるいは国際社会に至るまで、さらに、少し発展的なつながりのあるディベートやポスターセッションなどという学習をやっていくことになりまます。

2点目の選挙権につきましては、平成28年度の教科書には選挙権が18歳に引き下げられるということについての記載はありませんが、例えば、平成19年に公布された憲法改正国民投票法というものがあり、そこでは18歳ということになっておりますが、それについて巻末の法令集に載せているのが、清水書院と育鵬社の2社でございいます。東京書籍は18歳選挙権の記載はありません。選挙シミュレーションで話し合い活動をさせるような内容になっております。教育出版も選挙の課題を自分の言葉で説明させているという課題が出ております。清水書院は、調査として、最近の選挙での投票率を調べ、選挙権があってもそれを使わない人が多いのはなぜか話し合ってみようというページがあります。それから、清水書院は、憲法改正にかかわる国民投票法について、18歳以上の国民が投票権を持つことを明記しています。帝国書院も憲法改正にかかわる国民投票法について、18歳以上の国民が投票権を持つことを本文に明記しています。日本文教出版は、選挙の流れがよくわかるような資料が載せてあります。自由社は、憲法改正にかかわる国民投票法について、18歳以上の国民が投票権を持つことを本文に明記しております。育鵬社は、同じく18歳以上の国民が国民投票法において投票権を持

つことを明記しております。ですので、国民投票法において18歳で投票権があるということは数社が記載しておりますが、18歳の選挙権についての記載はございません。

以上でございます。

○坂倉教育長 高校も大変だけれども、中学もどうするかなというあたりで、現場の声も聞きたかったのです。正直言って帝国書院がすごくいいと思ったのだけれども、教科書を開けてすぐのところ年齢ごとに来る権利というようなことが載っているのですが、今言ったとおり、国民投票法は18歳だけれども、選挙権は20歳とはっきり載っているわけですね。それはそれで直せばいいのだけれども、現場でどう教えていくのかを考えると、何となく難しいのかなと思って、どのようにやっていくのか気になりました。高校は、非常にいろいろな意味で規制もあつたりして大変だけれども、中学のときからやっていかないと、本当に若年の低投票率が問題になっているので、どういうふうに教えるのかというのを聞きたかったのですが、現実的にはどのようにしようと思っているのですか。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 先ほども少し説明で触れさせていただきましたが、選挙権が18歳ということで、来年度から高校生の一部でそういうことにかかわっていくということになりますので、中学校のほうでも、先ほどの選挙シミュレーションであるとか、あるいは模擬投票であるとか、そのような活動を通して将来に向けて育成を図っていきたいと考えているところです。

○坂倉教育長 あと、先ほど3年生について、歴史が40時間で、残りは公民に回しているとおっしゃっていましたが、3年生の歴史は1学期でもう全部終わらせなくてはいけないから、逆に言うと、1、2年生で公民はどのくらいとれているのですか。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 1、2年生では地理と歴史をやっておりますので、公民はございません。

○坂倉教育長 3年生だけなのですか。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 はい、3年生の歴史が終わってからの展開となります。

○坂倉教育長 受験勉強に入っていく中で、これだけディベートなどで考えさせるというのは、方向性としてはわかるけれども、すごく大変ですね。内容として、求める方向はすごくいいと思うのだけれど、3年の2学期以降に集中というのはなかなか大変ですね。ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○興水委員 ICTに関して御質問いたします。今、ICTについて日本が非常に遅れているということで、子どもたちにICTについて意識を持たせると同時に、実際に活用させるということで、スキルを上げたいというのがあるのだらうと思います。

ある出版社では、専用のウェブページを自由に検索できるというような形がありますが、そこら辺についての御議論があったのかどうか。また、公民的資質にすごく大きくかかわると思うのですが、情報関係についての記述はいくつかありましたが、今の御説明の中にはそれがちょっと聞き取れなかったのですけれども、そこら辺で何か調査研究の際にあったかということをお聞きしたいと思います。

○福山教科別調査部会「社会（公民）」部長 情報の収集というところにつきましては、社会科では新聞であったり、図書、それからインターネットも含め、いろいろな情報の収集の仕方があるかと思えます。ですので、特にICTという視点だけで各社を見ていくということはしておりませんが、どれだけ情報の収集のところで工夫をしているのだらうか、生徒にわかりやすく説明しているのだらうかというところの観点では見させていただいております。

○坂倉教育長 ほかに御質疑はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 特になければ各委員の御意見をお聞きします。

御意見ございましたらお願いします。

○和田委員 私も中学生を見ている中で感じているのですが、公民の時間というのは、知識・理解としてさまざまな問題があることはわかるのだけれども、これを実際に自分たちがかかわっていくのだというところまで、なかなか追いついていない実態があるのではないかなと思っています。

今回の教科書は、今の説明にもあったように、話し合いやディベート、あるいは意見表明だとか、そういったようなものを取り上げていくような教科書になっているので、できるだけ具体的に生徒たちが活動に参加できる、あるいはかかわれるような、そういう取り扱いになっている教科書がいいのではないかと考えています。

○坂倉教育長 ほかに御意見はございますでしょうか。

○星山委員 また大学生の話で恐縮なのですが、八王子だけではなくて全国から集まってくる学生を見ていると、自分の意見で話ができる子どもというのは本当に少ないという気がして、こちらのほうで主権であるとか、多角的に考える力であるとか、協働的な取り

組みと言っている割には、実際には子どもたちにそういう力がついているのかなという不安の中で、いろいろな選挙権の問題などが新たな課題としてあるわけだと思います。

もちろん知識を教えるということも大事なのですが、先ほどから出ているように、自分の意見を持ち、きちんと自分で考えて、それが違っていても他者に伝える力というのは、義務教育のうちにぜひ体感して、会得してほしいと個人的には思っていますので、教科書のほうでも反映していただけたらいいなと思いました。

○坂倉教育長　ほかに御意見はございますでしょうか。

○金山委員　委員のみなさんがおっしゃっているのと同じように、特に公民というのは、それを行動に結びつけることが将来的に必ずある分野だと思っていますので、その際に表現するということと同じく、人の言うことをきちんと読み解くということがとても大事になってくると思っています。そういう意味で、メディアリテラシーに関してきちんと記述があって、子どもたちにICTに振り回されるのではなくて、自分たちが自主的にそれを使いこなす人間になるのだよというところも押さえてほしいなと思っています。

○坂倉教育長　ほかにございますでしょうか。

○興水委員　いろいろな意味で子どもたちの発達が遅れていると思うのです。成熟し切れていない。でも、待ったなしにその世代に国の命運を委ねなければいけない事態が起こってくると考えたときには、やはり公民の果たす役割はすごく大きいし、この100時間をしっかりと使いこなすための教科書を選びたいというふうに思います。動ける、または次の行動に移せるような子どもたちを育てていけたらいいなと思います。その点では選挙もそうですし、裁判員裁判もそうですし、具体的な現実の動きが出ている教科書が大事だろうと思います。もう一つは、バランスがしっかりとれていることだと思います。

以上です。

○坂倉教育長　皆さんがおっしゃったとおりだと思います。それから、いつも言っているように、教科書の内容をそのまま教えるのではなくて、教科書で生き方を教えると思っていますのですが、私はたまたま行政出身の教育長なもので、今回少しひっかかったのが、公民の中に地方自治があって、地方財政があるのですけれども、歳入歳出を載せていない教科書もあれば、載せている教科書もある中で、載せ方もさまざまなのです。わかりやすい例でいきますと、都道府県と市町村あわせた形で、大体、民生費が23%くらいで、教育費が16%くらいなのです。都道府県は教員の人件費を持っていますから。これが区市町村になると、大体民生費が34%くらいで、教育費が9から10%く

らいなのです。市町村は教員の人件費を持っていませんから。一方で八王子市の場合は、民生費50%で教育費10%なのです。これに関しては、よく頑張れという話をして
いるのですが、そのくらい都心部というのは、ある程度裕福かもしれないけれども、福祉
に対する充実ということもあるというあたりで、この辺はなかなか教えるのが難しい
のかなと思いますし、逆に言うと、先生方もわからないかなと思います。もちろん教科
書の選び方は皆さんと同じなのだけでも、その辺の、八王子がどんなふうに行ってい
るかというのを教えていくのは、少し考えていかなければいけないかなということと思
っていて、教科書に出典が載っていないので、ぱっと見て国が民生費23%で、教育費
16%なのに、何で八王子は50%と10%なのかと言われると、何とも言い返しよう
がないのですが、現実的にはその状況なので、そういうところの八王子に対しての教育
も少し考えなければいけないかなということを考えつつ、教科書を考えようと思いまし
た。

それでは、ほかに御意見もないようでありますので、次の種目に移ります。

-
- ◇
- 坂倉教育長 数学について、資料作成委員会から御報告願います。
 - 工藤教科別調査部会「数学」部長 数学科の部長をさせていただいております、川口中学
校校長の工藤でございます。よろしくお願いいたします。
 - 久保寺教科別調査部会「数学」副部長 同じく副部長をさせていただきましております、
柚木中学校校長の久保寺です。よろしくお願いいたします。
 - 坂倉教育長 それでは、工藤部長、お願いします。
 - 工藤教科別調査部会「数学」部長 それでは、数学について御説明させていただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は啓林館でございます。

調査の観点1、内容について御説明いたします。(1)の教科書の内容が発達段階に
即しているかということですが、報告書のとおり、全7社とも小単元や単元ごとに目標
がはっきり示されています。

(2)の生徒の興味や関心を引き出す配慮がされているかについては、東京書籍は、
パズルや数学の歴史などを使って、生徒の興味・関心を引き出そうとしている。そのほ
かは、数学的活動を引き出す課題を多く取り入れてあるのが特徴です。

大日本図書は、「社会にリンク」のページをつくって、学習内容と関連することを取
り上げ、説明がされています。

学校図書は、導入部分に数学的な活動に適した教材を配置することで、生徒の興味・関心を引き出そうとしています。

教育出版は、「数学ミニ辞典」「チャレンジコーナー」「数学の広場」などを配置し、生徒の興味・関心を引き出そうとしています。

啓林館は、「Math Nav i ブック」という別冊があり、本書の内容を実生活につなげる形で生徒の興味・関心を引き出そうとしています。

数研出版は、巻末の「チャレンジ編」によって基礎の反復を、そして「深めよう」では興味・関心を高める発展的内容を扱っています。

日本文教出版は、「生活への利用」「深める数学」などを章末に配置し、学習を発展させ、身の回りの問題を解決させようとしているところに工夫が見られます。

(3) の本市の学力の実態への配慮の観点から申し上げます。報告書にあるとおり、7社とも独自のキャラクターによる考え方のヒントや本文の横に振り返る内容を記載する等、工夫が見られます。これにより、生徒が楽しく、わかりやすく学習を進めていけるよう、配慮されていると考えます。

次に、調査の観点2、構成及び分量について説明いたします。(1) の内容の配列や発展的な記述については、報告書のとおり、7社とも系統的に配列がなされ、発展的に記述がされていると考えています。

(2) の分量についても、7社とも発達段階に応じて分量を考え、構成してあると思います。

(3) の基本的事項の押さえ及び補充教材について説明いたします。東京書籍は、「巻末問題編」として、「学びをつなげる」「基礎をかためる」「学びを生かす」のよりにわかりやすく整理されていて、発展教材にも使えるように構成されています。

大日本図書は、本文の横に「プラス・ワン」として練習問題をつけているところに特徴があります。「練習」では、問題量が豊富で、反復練習にもよく、適度に補充的な問題もあります。

学校図書は、「Q」を配置し、学習の手がかりの問題を載せています。基本事項から補充的な教材まで扱っています。

教育出版は、巻末に「数学で大切にしたい考え方」や「たしかめの補充問題」を載せています。「たしかめの類題」に取り組みせ、学習の定着を図ろうとしています。

啓林館は、「力をつけよう」というページに、繰り返し練習とまとめの問題を載せて

います。基礎を押さえ、適度な補充教材も扱っています。

数研出版は、本文中に「確かめよう」で生徒が学習内容を身につけやすいよう、確認問題を配置しています。基礎を押さえ、補充教材も十分であると思います。

日本文教出版は、章末に「くり返し練習」を配置し、生徒が学習内容を身につけやすいようにしています。巻末にも振り返りのできる問題や補充教材を十分に載せています。

(4)の発展教材への配慮についてですが、東京書籍は「巻末課題編」に、「社会とつながる」「数学をひろげる」「教科とつながる」「数学パズル」「数学の歴史」などを配置し、数学的な見方や考え方を身につける活動ができるようになっています。

大日本図書は、「Mathful」の中で、「発展・もっと数学」や「社会にリンク」を配置し、発展教材への配慮がされています。

学校図書は、「さらなる数学へ」の中で、「表現する力を身につけよう」「課題学習・自由研究」を配置し、生徒が興味を持てる内容で発展教材を扱っています。

教育出版は、章末に「基本のたしかめ」や「学習のまとめ」を、そして巻末に「自由研究」「実力アップ問題」を配置し、配慮しています。

啓林館は、本文中に「自分のことばで伝えよう」を位置づけています。「ひろがる数学」「数学を通して考えよう」を配置し、発展教材の配慮がされています。

数研出版は、本文中に「考えよう」を位置づけ、いろいろな考え方をさせることで深い知識が得られるように配慮してあります。

日本文教出版は、章末の「とりくんでみよう」では、やや程度の高い問題が扱われています。巻末でも「数学研究室」や「力をのばそう」で発展教材を扱っています。

調査の観点3、表記及び表現、(1)の読みやすさについてです。各社ともにマーク、矢印、吹き出しを駆使して、生徒が読みやすい教科書になるよう工夫しています。手書きやノートのレイアウトを生かして表現するなどの工夫が各社に見られます。

(2)の印刷、写真等の見やすさについては、東京書籍は美しい写真が掲載されています。また、配置や量も適切で、文中の文字の色分け等もわかりやすい教科書に仕上がっています。

大日本図書は、生徒が身近に感じる写真が多く掲載されています。色使いがはっきりしている教科書に仕上がっています。

学校図書は、ページの色を変えたり、全体的に見やすい教科書に仕上がっています。

教育出版は、特に巻末の総まとめのページのイラストがよく、読みやすい教科書に仕

上がっています。

啓林館は、全体的に色使いが落ちついていて、見やすい教科書に仕上がっています。

数研出版は、各ページの構成にゆとりがあり、スペースの活用がしやすい教科書に仕上がっています。

日本文教出版は、文中の文字の色分けなど、わかりやすく表現されている教科書に仕上がっています。

続いて、調査の観点4、使用上の便宜について御説明いたします。(1)の全体の構成が見渡せるよう配慮されているかということについて、各社とも学習の進め方やこの教科書の使い方について、きちんとページを割いて明記してあります。ここは報告書を御覧ください。

(2)の課題発見、解決に向けた学習への配慮について、東京書籍では、「ちょっと確認」「もっと練習」「まちがい例」など、課題発見や、解決しやすいようにしてあります。「例」「確かめ」「問」の順番を統一してあったり、ノートに書くときの例を示すなど、指導しやすいよう配慮されています。

大日本図書は、「研究しよう」「レポートを書こう」では手書きにしてあったり、生徒にとって身近に感じるよう工夫がされています。苦手な生徒が多い文章問題、関数、証明問題は穴埋め形式にし、取り組みやすくしてあります。

学校図書は、課題学習に関する問題が豊富で、生徒が自由に研究する際のヒントにもなるように配慮してあります。

教育出版は、例題の上にねらいが書かれており、課題が明確にされています。指導のポイントも吹き出しを使いわかりやすく、章の初めの「Let's Try」が章の内容まで円滑に導いてくれるよう配置されています。

啓林館は、各章にある「基本のたしかめ」で、教科書の振り返りができるようにしてあり、「数学の広場」では課題学習に取り組みやすいような内容を扱っていて、活用する力がつきやすいように配慮されています。

数研出版は、発展的な題材が豊富で、生徒の好奇心を引き出しやすいように配慮されています。身の回りにある数学的題材を扱っていて、生徒が学習に取り組みやすくなっています。

日本文教出版は、例題の横にねらいが書かれており、例題の意図が明確にされています。「基本の問題」「章のたしかめ」では、評価の観点が付記されていて、確認しなが

ら学習を進められるよう配慮してあります。

(3) の印刷、装丁への配慮については、7社ともペーパークラフトをつけている点が共通しています。啓林館だけはMath Nav iブックもついて、別冊となっています。

(4) の地域性への配慮は、数学の場合、特段配慮されているものはありません。

調査の観点5、ここからは数学科独自の観点について御説明いたします。

(1) の数学的な活動については、見出す活動、利用する活動、説明し伝え合う活動に注目して、各社の教科書を調査いたしました。

東京書籍は、見出す活動と、説明し伝え合う活動は、章や節の導入部分で扱っています。利用する活動は、巻末にまとめて配置してあります。

大日本図書は、例題の中でこの3つの活動のどれに該当するか示してあります。

学校図書は、全ての章で3つの活動の中から1つを取り上げ、ページを割いて配置してあります。

教育出版は、各章の導入で利用する題材を取り上げています。本文中に3つの活動を満遍なく取り上げています。

啓林館は、各章の導入で見出す活動を中心に取り上げています。利用する活動は巻末にまとめ、別冊もつけています。

数研出版は、見出す活動を問いの中で扱っています。利用したり、説明し伝え合う活動は応用問題として発展的に扱っています。

日本文教出版は、見出す活動を中心にわかりやすく示しています。利用する活動は主に章末に配置しています。

(2) の学習の振り返りについての扱いですが、東京書籍は、基本問題、章の問題A、章の問題Bと難易度別に分け、習熟度に合わせて復習を進められるように構成されています。巻末に学習内容をまとめてあるため、必要に応じて振り返りながら学習を進めることができます。

大日本図書は、練習のページを定期的に配置し、ゆったりとした構成に仕上げられています。巻末で1年間を振り返ることができます。章末問題も課題に応じて取り組みやすいよう配慮されています。

学校図書は、章末の振り返りが1ページでできるよう問題が精選されています。章の初めに、既習事項の振り返りがあるので、導入としても使いやすくなっています。章末

問題は、基本・応用・活用に分かれていて、学習の到達度を確認しやすくなっています。

教育出版は、各章の前に既習事項の振り返りがあり、導入に使いやすくなっています。各章の最後にその章で学習した内容を振り返られるようなページがあります。章末問題もそれまでの学習に取り組めるようにしてあります。

啓林館は、章末の「基本のたしかめ」に学習したページが付記してあり、巻末には「くり返し練習」「まとめの問題」「ひろがる数学」などで課題別に振り返りができるようにしてあります。

数研出版は、巻頭に「クイックチャージ」「ドリルでチャージ」があり、前年度の既習内容のポイントを振り返ることができます。巻末には「チャレンジ編」があり、応用にも取り組めるように配置されています。

日本文教出版は、章ごとに「基本の問題」「くり返し練習」「たしかめ」「とりくんでみよう」がセットされていて、問題の量も多く、習熟度別に取り組めるようになっています。巻末の振り返り問題も、前年度の復習も含め、充実しています。

(3)の小中連携した内容については、本市の小中一貫教育の視点からも重要と考え、設定した観点です。理解しやすく、効果的であるか、指導上使いやすいかということに絞って7社の教科書を調べました。

①のわかりやすく効果的かについては、7社とも、目次や各章に入る前に、小学校の既習内容を配置し、小学校と上手に接続できるような配慮がなされていました。どの教科書もわかりやすく効果的にまとめられています。

②の使いやすさについては、巻頭や巻末に小学校の内容をまとめてあるのは東京書籍、教育出版、数研出版、日本文教出版です。東京書籍、教育出版は、折り込み形式でつくられていて、写真やイラストを入れたりと独自性を出しています。授業の流れの中で小学校の内容を振り返ることができるようにしてあるのが、大日本図書、学校図書、啓林館です。

以上で御説明を終わります。

○坂倉教育長 お疲れさまでした。

ただいま資料作成委員会の報告が終わりました。数学について御質疑はございますでしょうか。

○星山委員 使う生徒の身になっての話なのですが、答えの位置なのですが、問題を解いているときの答えの位置が、すぐ見えるところに書いてあるのと、巻末に書いてあるも

のがあって、その辺は教えていらっしゃるときに何か感じられることとかないでしょうか。

○工藤教科別調査部会「数学」部長 基本的な問題は、すぐに答えを確認して次に進むほうが定着度が高いように思います。現場の先生方はそう感じられていると思います。

○坂倉教育長 他に御質問ございませんでしょうか。

○和田委員 導入の部分の工夫と、それから練習のところでも少しお聞きしたいのですが、導入の部分にかなりページを割いて説明をしていて、実生活と結びつけていきたいというような意図がよくわかるものと、すぐに計算や式に入ったりとか、実際にそういう技能が高まるようなつくりになっているところが見かけられるように思うのですが、やはり最初の導入の部分というのは、かなり先生方が御苦労される部分だろうと思うのですが、そういう部分というのは、教科書に書かれているものを使って導入するのが一般的なのか、あるいは先生自身がほかのものを持ってきたり、要するに、教科書の導入の部分がそのまま授業の最初の展開になるのかということをお聞きしたいなと思います。私の考えでは、それがかなり重要になってくると思うので、教科書の導入の部分はそのまま教科書の中で教えていくのかというのを一つ確認させてください。

2つ目は、これ以外に問題集を用意しますよね。これだけドリル化されている教科書に、さらに問題集があるという状況なのですが、その量的なものというのは、教科書だけでは不十分で、もっとやったほうがいいのかという考えなのですか。やればやるほどいいという、そういう考えですか。その辺を聞かせてください。

○工藤教科別調査部会「数学」部長 最初の御質問は、教科書の導入部分をそのまま教えているのかという実態の部分についてかと思うのですが、指導者の経験やスキルにも大きくかかわってきます。実際に現場では、最初の3年間は、まず教科書に載っている導入教材をそのまま教えるケースが少なくないと思います。ただ、それをやりながら、現場のベテランの先生に聞き、こういう別の入り方があるよというような活用であるとか、あるいは外の研修でこういう導入の仕方があるよということを知って、そういう中でそれぞれ少しずつ変化していく。最終的にはスムーズにその後の本編の内容に移れるような、そして生徒の興味・関心を広げていけるようなものが、個々の指導者の先生方のスキルになっていっているというような状況です。

ただ、今は習熟度別少人数指導も行っているので、その導入の仕方が学校によって

一つになっている学校が増えているかとは思いますが、それが一つ目です。

問題集については、教科書の問題の数だけでも随分あるのですが、生徒もそうですが、保護者の要望として、できるだけ問題をたくさんやらせたいのだということがあり、3年生について言えば受験対応なども、その辺もあると思います。

○坂倉教育長　今の和田委員の質問とも関係するのですが、啓林館をどう評価するというときに、やはりMathNav iブックが大きいと思うのですが、去年小学校の教科書採択があったときの、算数、生活、理科から始まって、今回の数学、それから理科でこういう形にしているわけですね。あと、考え方は違うのかもしれないけれども、英語で教育出版が同じようなことをやっているのですけれども、現場の評価はどうでしたか。こういう形でつくのだったら、むしろ問題集のほうが良いと言っているのか、それとも使い道があると言っているのか。去年の小学校のときは、確かに家庭学習につながるとか、それから、保護者負担の軽減にもなるという声もある半面、これを紛失してしまうのというような声もあったというようなことだったのですが、その点で何か御議論ありましたか。

○工藤教科別調査部会「数学」部長　これを即答するのは非常に困難ですが、一つの見方としては、別冊についての是非がある程度わかっているならば、恐らくそちらに流れていくのではないかなと思うのです。その決め手がないのです。ただ、今回のMathNav iブックについては、いわゆる生活につながる部分とか、発展的な部分を別冊にしているということで、これについても先生方に議論してもらったのですが、さまざまな意見に分かれました。

なぜかといいますと、今、数学は少人数指導を行います。そうすると、標準以上の生徒については結構使いこなせるのですが、基礎基本をやる生徒については、全く手が伸びないという可能性もあるのです。それが本文中に入っていると、少し中を開いて見てくれるという部分もあります。ただ、別冊になっていると、今度は上位陣のほうは非常に興味を持って見ることができます。申し訳ありません、お答えにならないと思うのですが……。

○坂倉教育長　ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○興水委員　御説明を伺っても、7社の教科書のいずれを使ってもいいよというふうに聞こえてしまったのですが、その中で一番違うと言え、啓林館のMathNav iブックだろうと思うのです。私はこれを見ていて、解答集かなと思ったのです。つまり、

本冊の章末問題の答えはこちらに書いてあるわけですよ。しかも、家庭に持って帰っていいですよとか、それからどの教科書会社もそうですが、御家庭でしっかりと家庭学習をと言っているのであれば、考えようによっては、これを親が持っていて答え合わせができるかなというようにも感じました。言ってみれば、この中身は、習熟度別のレベルの高いと言いますか、発展をやりたいお子さんのものというよりは、むしろ復習ではないですか。それほどレベルが高い内容というふうには見受けなかったのですが。どちらかと言えば易しい内容で、しかも教科書の問題の答え合わせには別冊にしてあって利便性がありますよというふうに私は受けとめたのですが、調査のほうでは、やはりこれはどちらかというとな発展的な、次をやりたいお子さんのためのものというような捉えなのではないでしょうか。

○工藤教科別調査部会「数学」部長 どちらかというとな、やや発展的ではないかという感想が多く聞かれたということです。解答が別冊になっているほうが使いやすいのか、巻末にあるほうが使いやすいのか、ページを1、2枚めくったところにあるほうが使いやすいのかということなのですが、これもお子さんの性格などによって違ったりします。一概にどれというのが言えず、本当に申し訳ないのですが、これは現場の先生の話として聞いていただきたいのですが、別冊になったときの使い勝手の部分で、なくしてしまう場合、持ってこなかった場合の扱いが非常に困るということがあるのです。これは、別冊云々の議論とは少しずれることだと承知して言っているのですが、現場としてはそういう声も挙がっているということをお知らせしたいと思います。

○坂倉委員長 ほかに御質疑ございませんでしょうか。

○興水委員 もう一つ教えてください。例題に誤答例を出して、間違いやすいところを出しているというのが特徴かなと思う会社は何社かあったのですが、やはり学校では、ここは間違いやすい、ひっかけやすいというところを子どもたちに見せるというのは、何かしら意味があるとお考えでしょうか。

○工藤教科別調査部会「数学」部長 意味があると思います。誤答例があるときに、なぜこれが違っているのかという展開が授業の中で組めるからです。また、誤答例をはっきり示すことでケアレスミスも防げるという効果もあります。さらに、誤答例を示すことで、あまり経験のない指導者がこういうところに力を入れて指導すればいいのだということに気づくという、それは本末転倒なところではあると思うのですが、大事な観点かなと捉えています。

○坂倉教育長 さらに御質疑はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 では、御質疑もないようでございますので、御意見を伺います。

御意見があれば、お願いします。

○星山委員 中学校の数学の授業を何回か拝見しているのですが、中学校の数学ほど子どもたちの能力の差が激しい科目はないのではないかと考えています。それで、少人数で教えるということもかなり一般的になってくる中で、それに対応する教科書というのをこれから考えていかなければいけないと思います。全員が同じペースで、同じように数学を求められる人生かという、そうでもないような気がしますので、もちろん最低限、押さえなければいけないことはあると思いますが、より発展的に数学を使って仕事をしていく子どもたちから、日常生活で必要なところをしっかりと学びたい子どもたちまで、さまざまな子どもたちに対応する教科書というのが、これから求められるのではないかという感想を持ちました。

もう一つ、私が専門としているところなのですが、見え方があまりきれいに見えなかったり、線がゆがんで見えるお子さんの中にも、数学が大変できるお子さんがいて、教科書の見え方で非常に点数が変わってくると思います。今回の教科書は全部ユニバーサルデザインと書いてありますが、私が拝見してそう思いませんでした。色使いやグラフの書き方なんかは、まだ改善の余地があるのではないかとと思われるところもありましたので、これからぜひそんなことも御理解いただけたらいいのではないかと思います。

以上です。

○坂倉教育長 ほかに御意見はございますでしょうか。

出版社さんに対して、本当に大変だなという思いで言うのですが、今、星山委員から、まだまだ改善の余地があるというお話がありましたが、この金額でこの教科書をつくるのはすごく大変だなと思って、本当に各出版社さんが子どもたちのために頑張ってくれているなと思っています。どこが選ばれるにしても、本当に素晴らしいというか、横に置いておきたいと思える教科書ですので、意見ではないのですが、我々はその感謝を述べて、選ばせていただきたいと思っております。

ほかに御意見はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 ほかに御意見がないようでございます。



○坂倉教育長 本日予定しておりました種目の審議は全て終了いたしましたので、各委員の意見集約をしたいと思えます。

お配りしてある用紙への記入は全てお済みでしょうか。

〔各委員用紙記入〕

○坂倉教育長 それでは、事務局は用紙を回収し、この場で封筒に入れて、封印していただきたいと思えます。封印が終わりましたら、私のほうでサインをして封緘したいと思えます。

〔記入用紙回収・封印〕

○坂倉教育長 それでは、ただいま封印した用紙は、8月5日まで事務局のほうで厳重に保管したいと思えます。

ほかに何か報告する事項はございませんでしょうか。

○廣瀬学校教育部長 ございません。

○坂倉教育長 以上で、定例会の審議は終わりますが、委員の方から何かございますでしょうか。

○金山委員 7月18日土曜日、清瀬けやきホールというところで行われた、第48回東京都市町村総合体育大会の開会式に参加してまいりました。今年の担当が清瀬市を中心とするブロックということで、代表の選手だけの入場と、それから表彰なのですが、18日から2週間にわたって開かれるということで、楽しく拝見させていただきました。例年八王子が1位をとっておりますので、もし、皆さんも機会がありましたらのぞいてみられたらと思えます。総勢4,800名くらいの選手の方が参加されるそうです。

以上です。

○坂倉教育長 今年で何連覇でしたっけ。

○小柳生涯学習スポーツ部長 8連覇中です。

○坂倉教育長 ぜひ頑張ってくださいと思っております。

ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 ないようであります。

以上で本定例会の議事日程は全て終了いたしました。

これもちまして、本定例会を終了いたします。ありがとうございました。

〔午後 1 2 時 3 0 分休憩〕